

市民アンケート結果

調査概要

1. 調査方法

郵送によるアンケート調査

2. 調査対象

1 8歳以上の都城市内在住者：1,200人

3. 実施期間

令和4年8月5日～令和4年9月5日

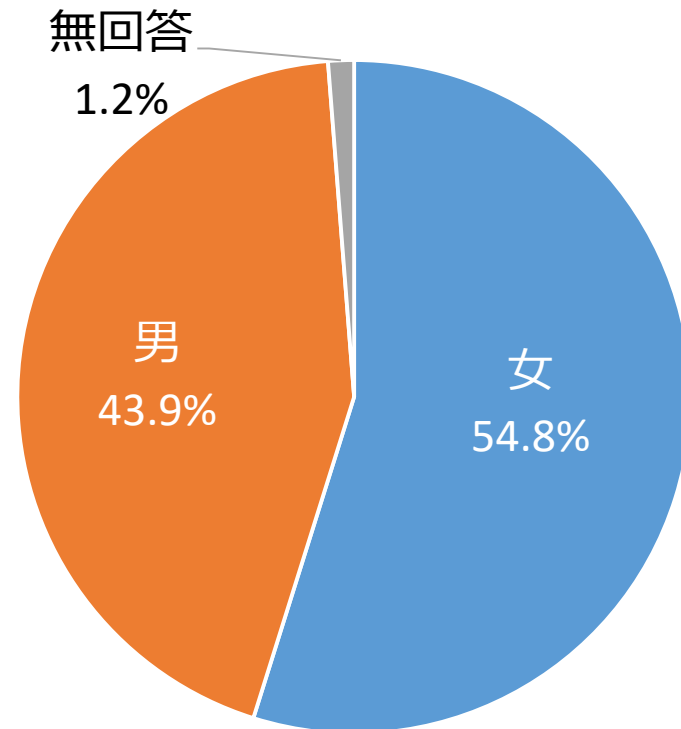
4. 回収結果

403人（回収率：33.6%）

問1 あなたの性別を教えてください

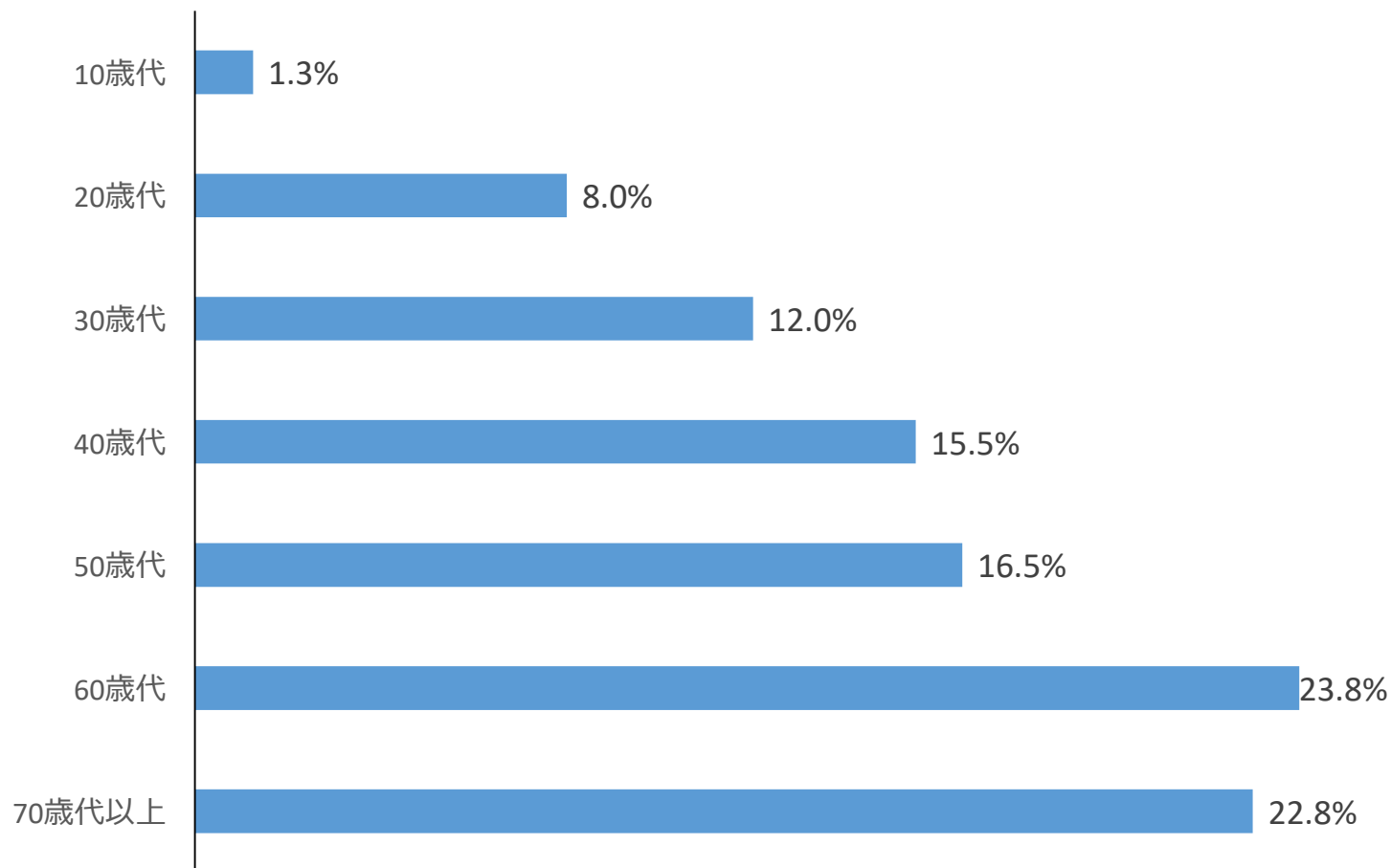
「男性」が約43.9%、「女性」が約54.8%となっており、女性の回答率がやや高いものの、市民アンケートにおいては傾向的に関される動きであることから、全体の傾向をみるうえで、大きな影響はないと考えられる。

選択項目	回答数	構成比
女	221	54.8%
男	177	43.9%
無回答	5	1.2%
合計	403	100.0%



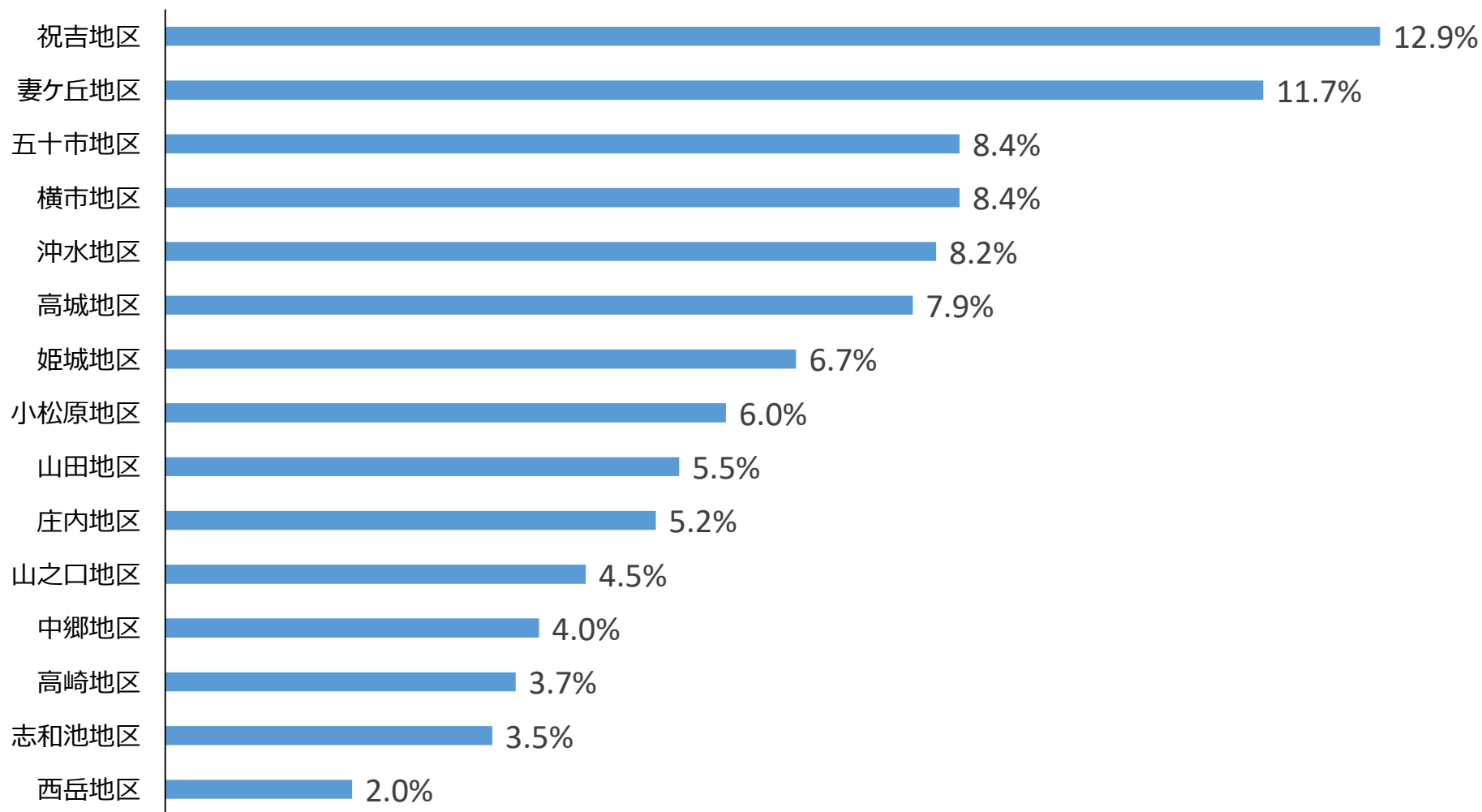
問2 あなたの年齢を教えてください。

回答者の年齢区分では、「60歳代」が23.8%、「70歳代以上」が22.8%と全体の半数程度を占めている。「10歳代」が1.3%を少数であるものの、調査対象が18歳以上であること、当市の人口ピラミッドを考慮すると、回答者の年齢分布に大きな偏りはないと考えられる。



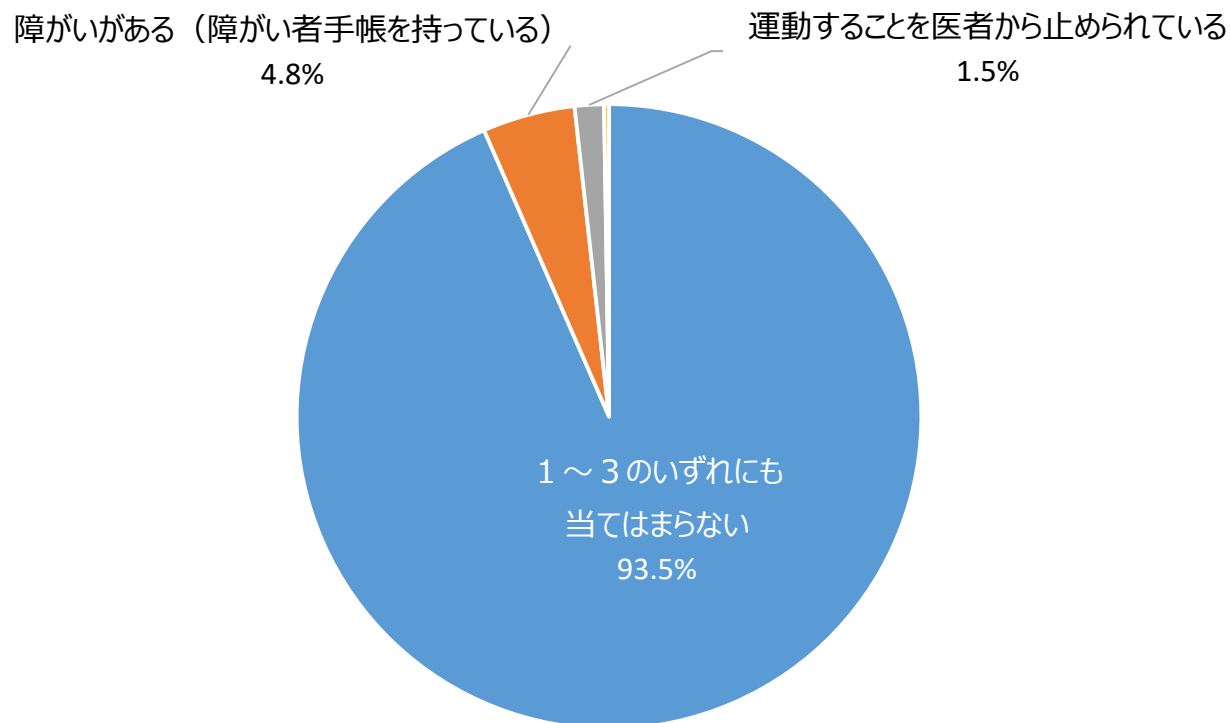
問3 あなたのお住まいの地区を教えてください

「祝吉地区」が12.9%、「妻ヶ丘地区」が11.7%と高い。当市の地区別人口比率を考慮すると、回答者の地区分布に大きな偏りはないと考えられる。



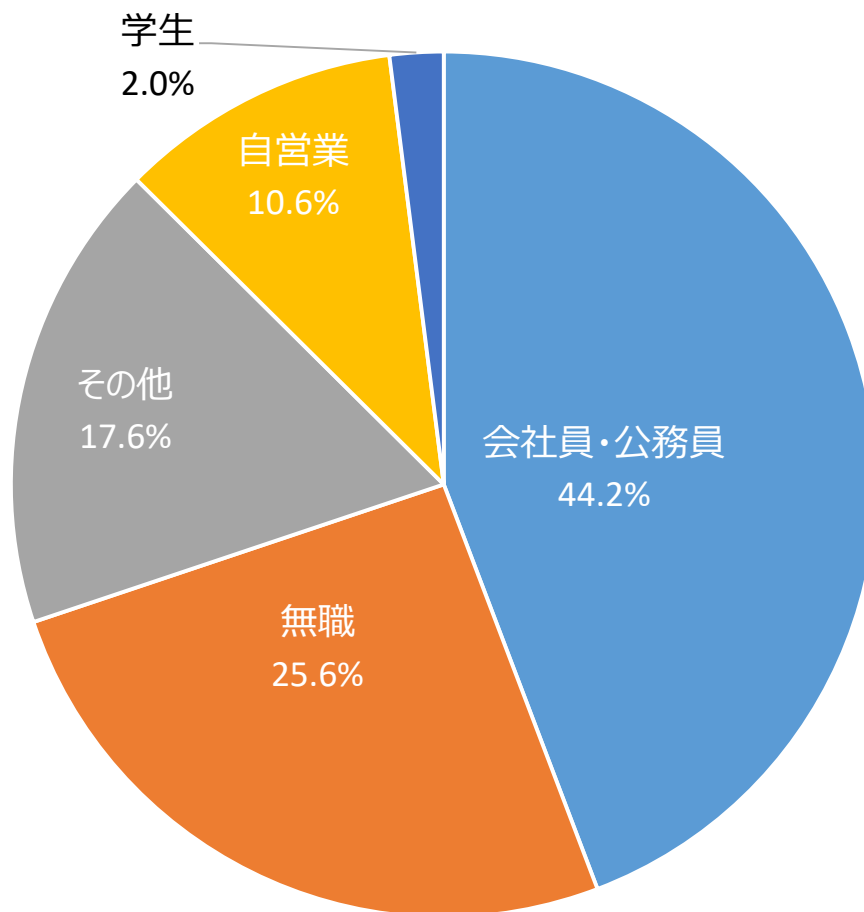
問4 あなたの体の状態（障がいの有無・運動の可否を教えてください）

「1～3のいずれにも当てはまらない」が93.5%となっている。そのため、「障がいのある方」「運動することを医師から止められている方」に関するご意見は、当市が保有する別途のデータ等の活用による分析が望ましい。



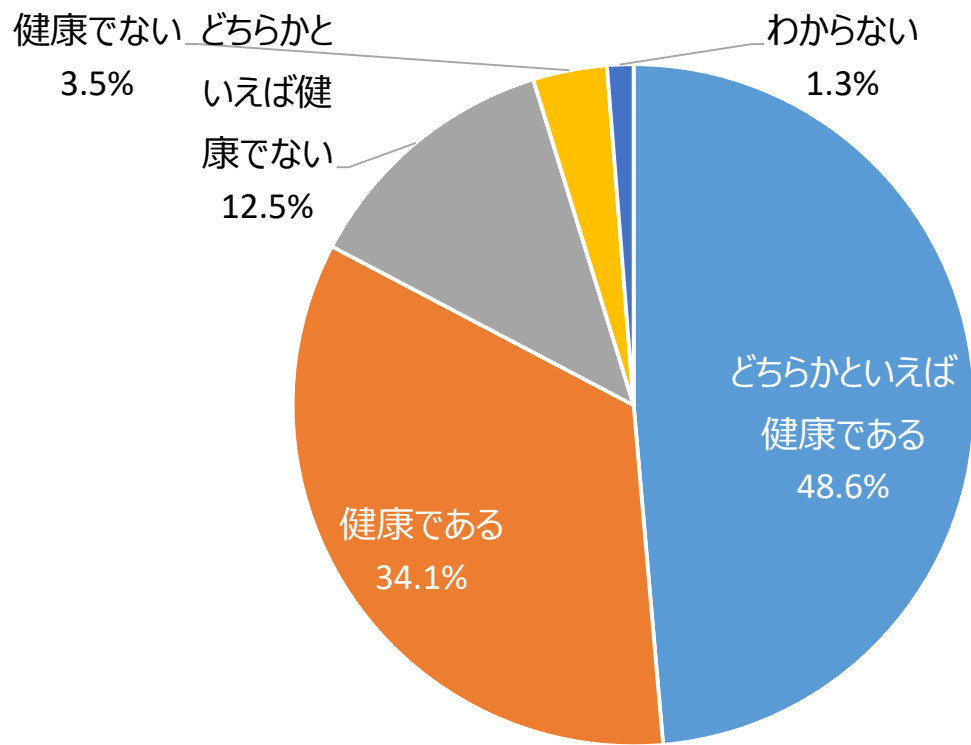
問5 あなたのお仕事（複数ある場合は主なもの）を教えてください

「会社員・公務員」が44.2%、「無職」が25.6%と全体の7割程度を占める。「その他」と回答された方は、ほぼ「パート・アルバイト」であった。



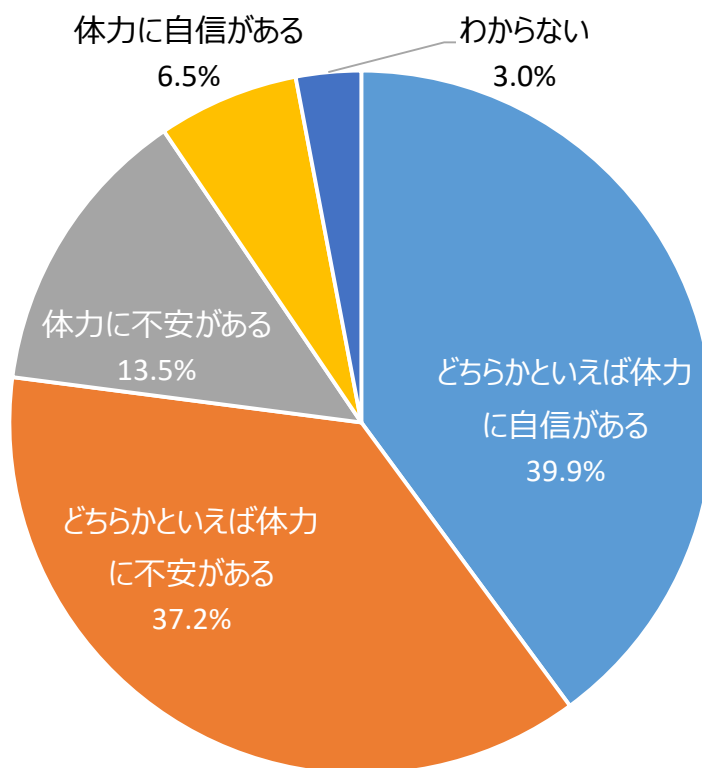
問6 あなたはこのところ健康だと思いますか

「どちらかといえば健康である」が48.6%と最も多く、次いで「健康である」が34.1%となっており、「健康である」と「どちらかといえば健康である」で約8割を占め、健康と認識している市民の割合は総じて高い傾向にある。ただし、これは全国調査(文部科学省「令和3年度スポーツの実施状況等に関する世論調査」)とほぼ同様の傾向でもある。



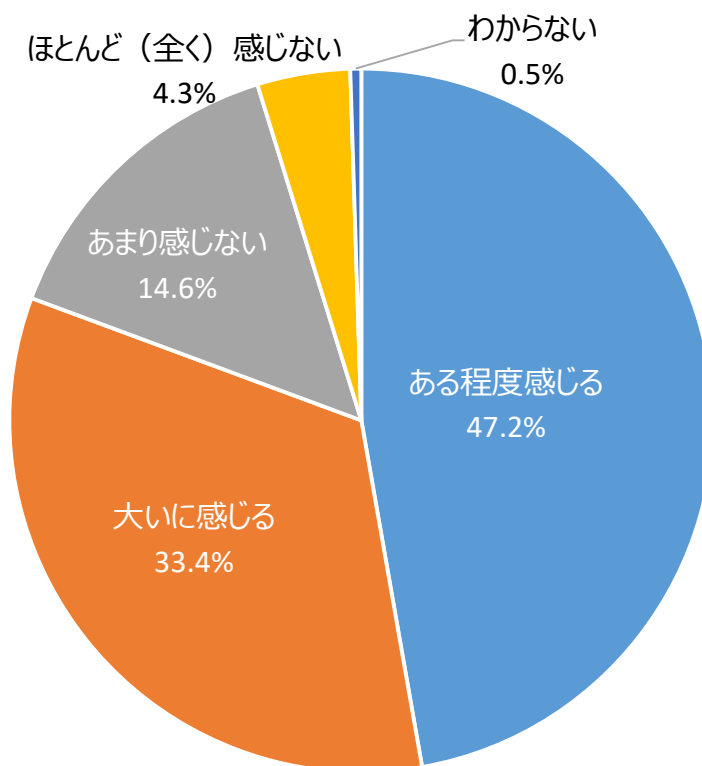
問7 あなたはご自分の体力についてどのように感じていますか

「体力に自信がある」、「どちらかといえば体力に自信がある」と「体力に不安がある」、「どちらかといえば体力に不安がある」は、概ね同程度（約5割）となっている。半数程度が体力に不安を感じていることから、「スポーツを日常に」に関する施策を実施したうえでの経年変化のモニタリングが必要と考える。



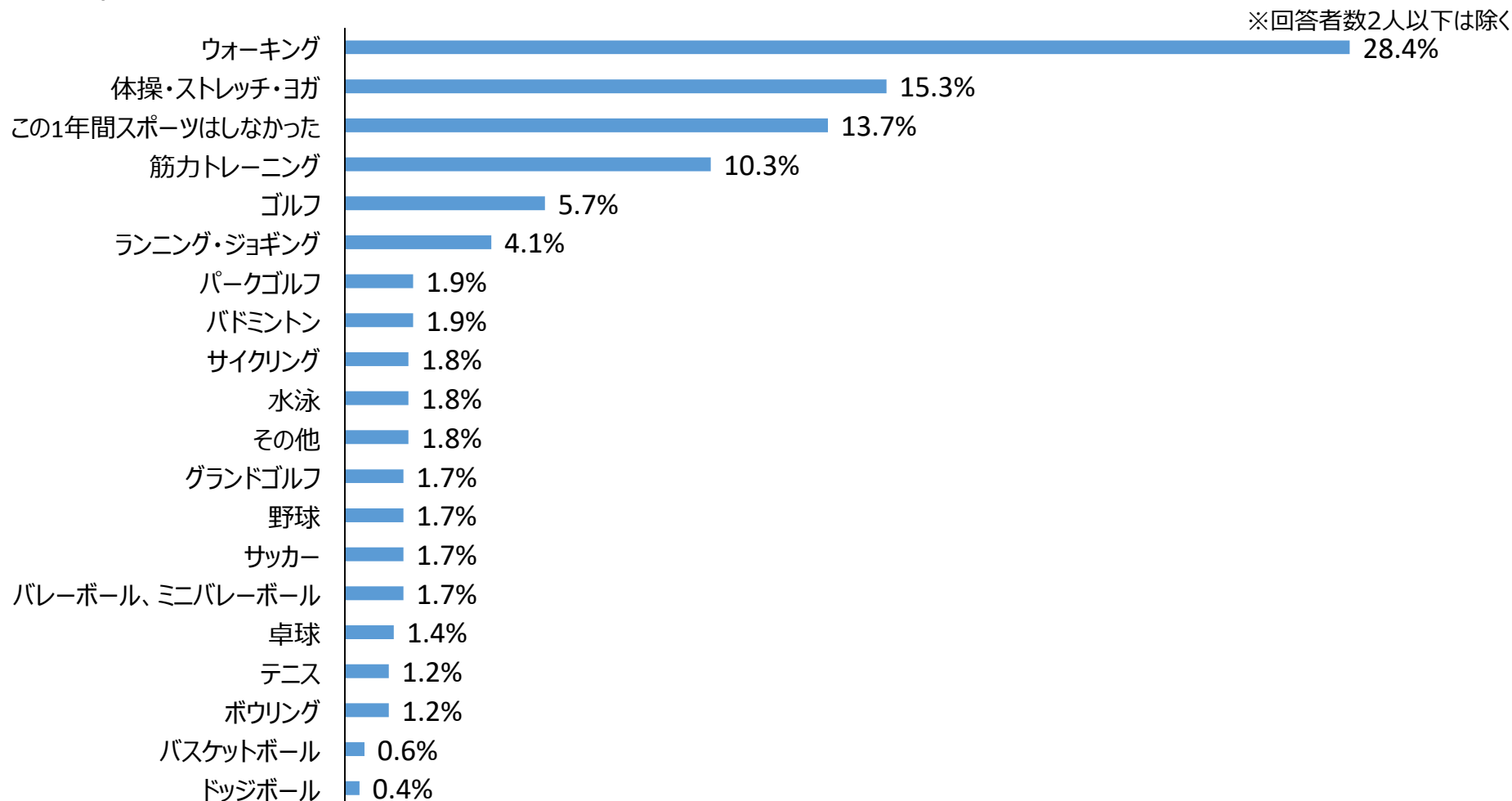
問8 あなたは普段、運動不足を感じますか

「ある程度感じる」が47.2%と最も多く、次いで「大いに感じる」が33.4%となっており、その合計で約8割を占める。すなわち、「健康と認識しているものの運動不足を感じている」方の割合は総じて高いと言える。全国調査と比較すると、本市の場合「ある程度感じる」との回答が約4ポイント高いことから、運動に関するニーズは高いと考えられる。



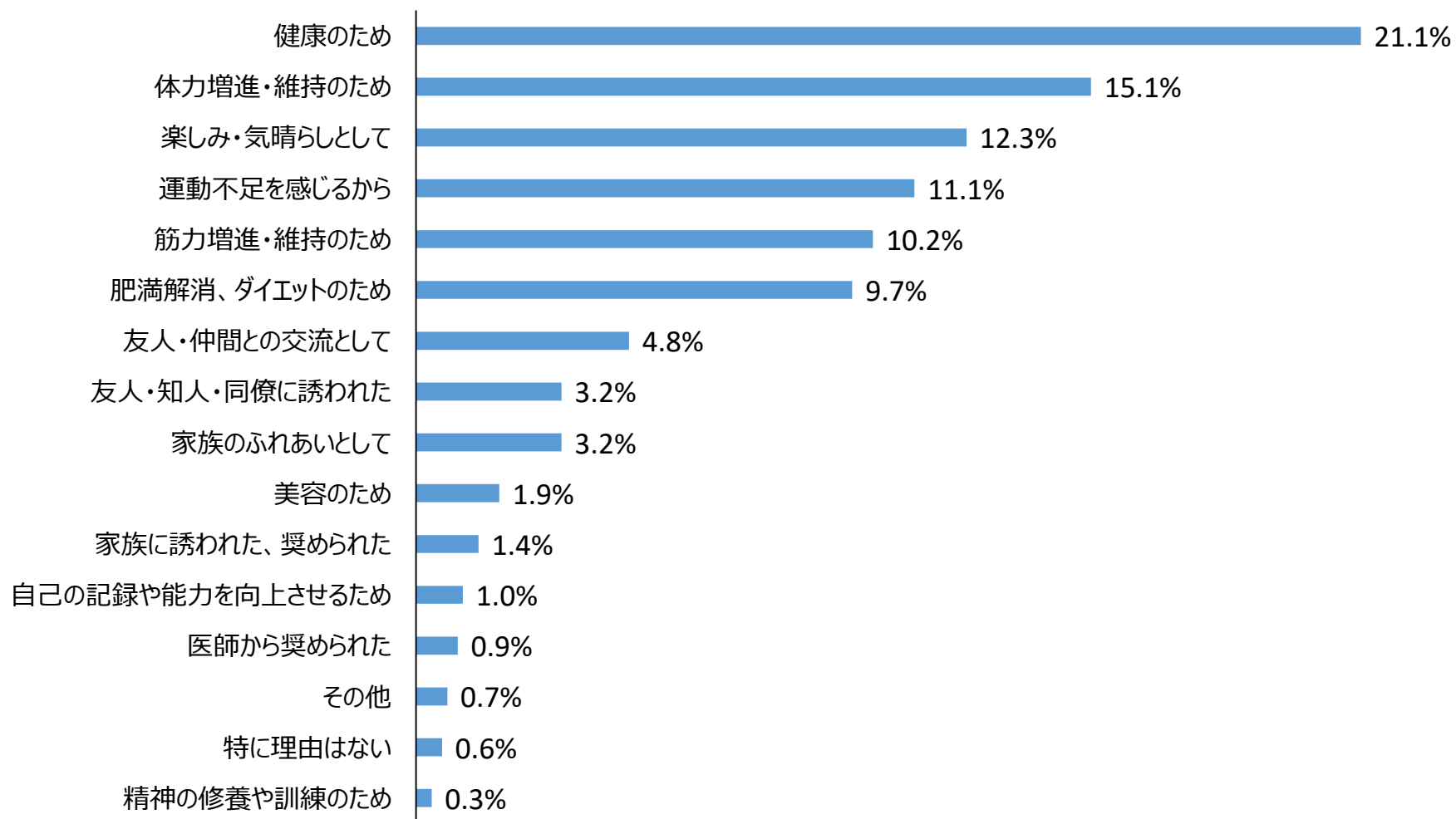
問9 あなたがこの1年間に行った運動やスポーツを3つまで選んでください

「ウォーキング」が3割弱と最も多く、次いで「体操・ストレッチ・ヨガ」、「筋力トレーニング」となっている。これは実施場所として自宅や道路などで気軽に日常的にできる運動が需要されているためと考えられる。または、運動施設の利用が困難（利用方法、金銭、交通手段等）な状況にあることも推察されることから、実施場所に依らないスポーツに限定されている様子がうかがえる。



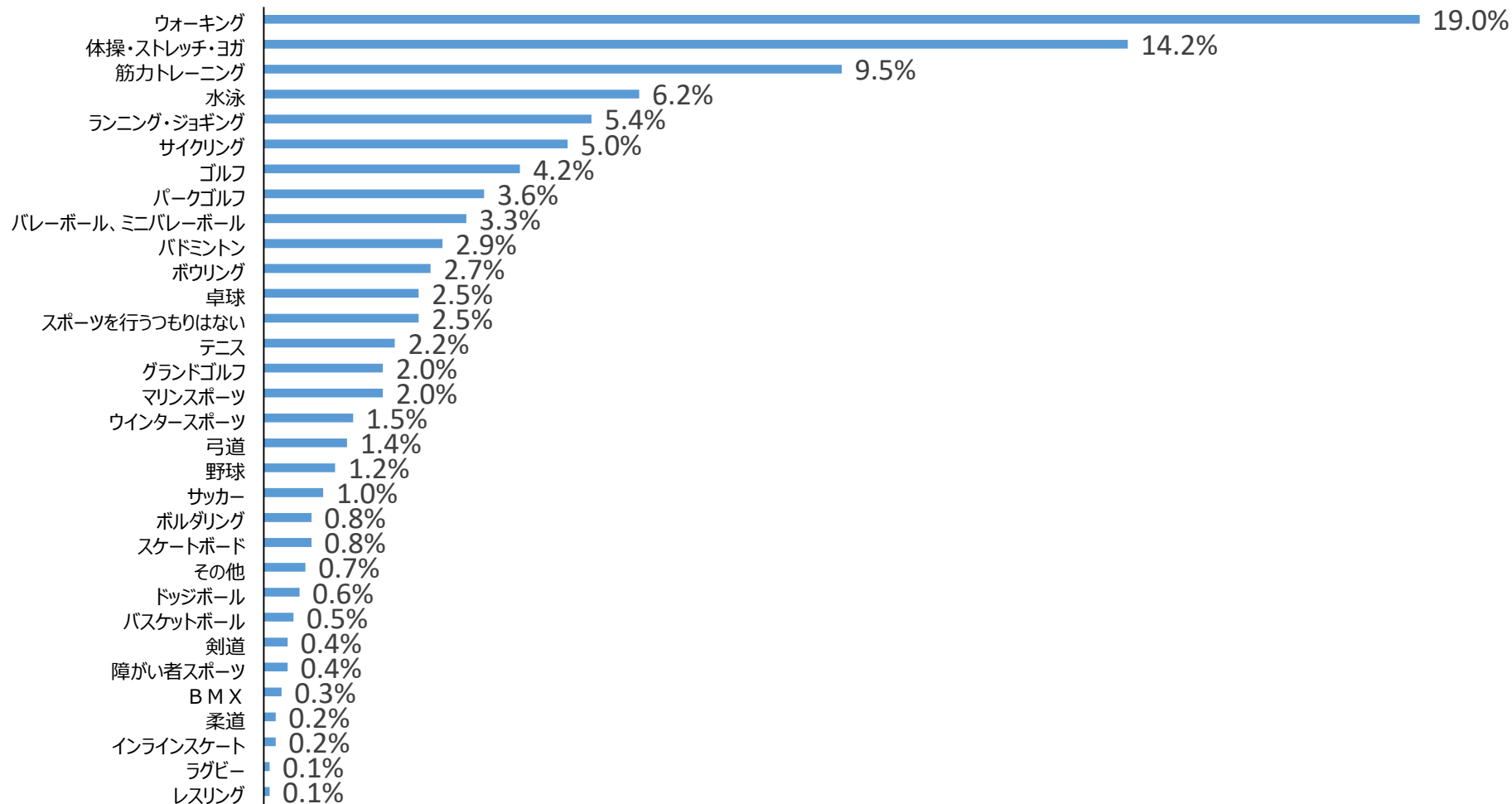
問10 問9で運動やスポーツを行ったと回答した方にお尋ねします。それはどのような理由から行ったのですか（複数選択可）

「健康のため」との回答が約2割と最も多く、次いで「体力増進・維持のため」が続いた。この背景には、健康維持や体力への不安払拭、といったものが横たわっているものと推察される。



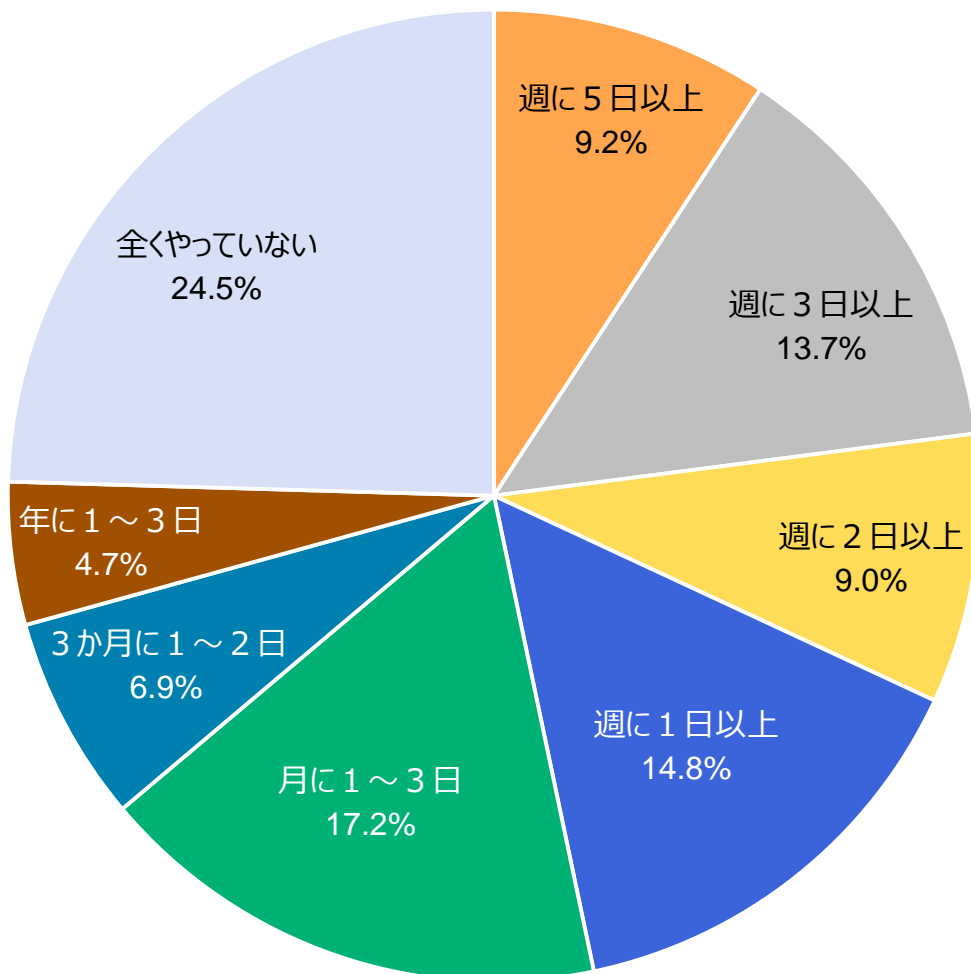
問11 あなたがこれから実施してみたい運動やスポーツがあれば全部あげてください。（複数選択可）

「ウォーキング」が2割弱と最も多く、次いで「体操・ストレッチ・ヨガ」、「筋力トレーニング」となっており、気軽に自宅や道路でできる運動の割合が高い。問9と比較すると、サイクリングや水泳の割合が高くなっており、自宅にとどまらず施設や道具の必要なスポーツが需要されている様子がうかがえる。



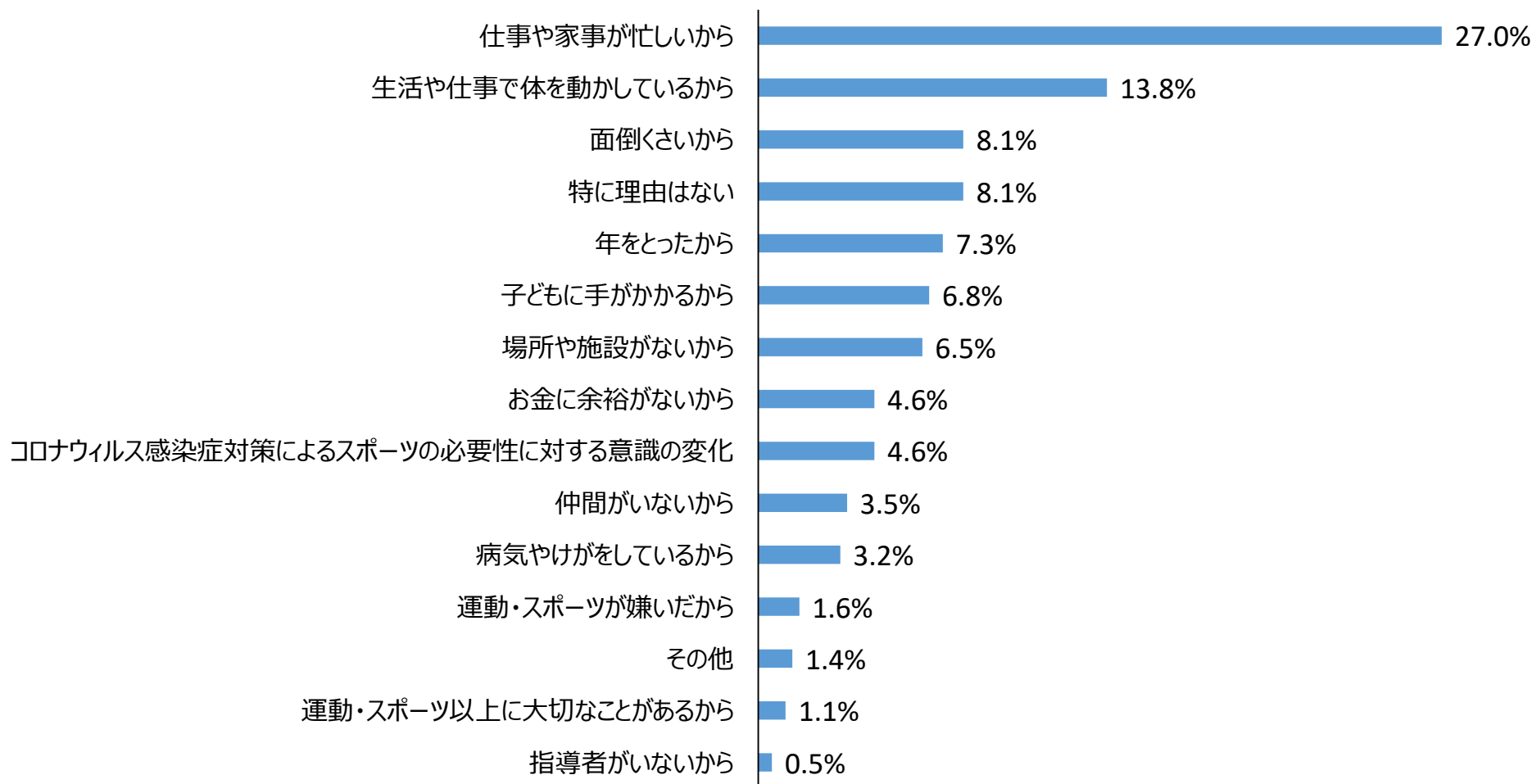
問12 この1年間に運動やスポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか

「週に1日以上」との回答があわせて（運動している層）で約4割に上る一方、「週に1日未満」の合計（運動していない層）が約5割を占める結果となった。「全くやっていない」が24.5%と最も多いため、スポーツイベントの開催、広報による周知等、気軽に運動を始められる環境の整備や意識啓発が必要と考える。



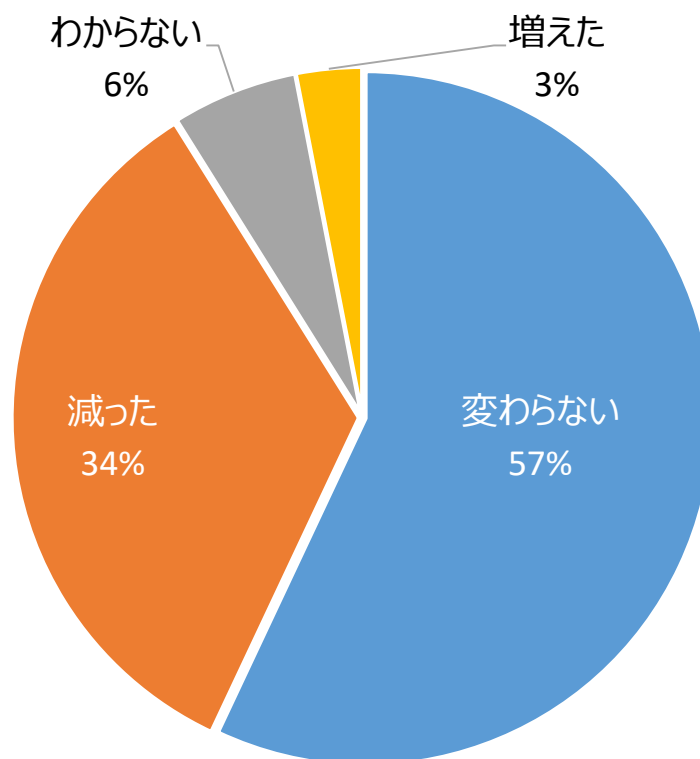
問13 問12で5～8を選択した方にお聞きします。週に1日以上運動・スポーツを実施できなかった理由は何ですか（複数選択可）

「仕事や家事が忙しいから」が最も多く、「生活や仕事で体を動かしているから」が続く。全国調査と比較すると「運動・スポーツが嫌いだから（9.8%）」との回答が少数にとどまることから、運動そのものに対する忌避感は少ないことがわかる。したがって、運動をしやすい、あるいは利用しやすい施設や環境の整備のほか、周知啓発が必要と考える。



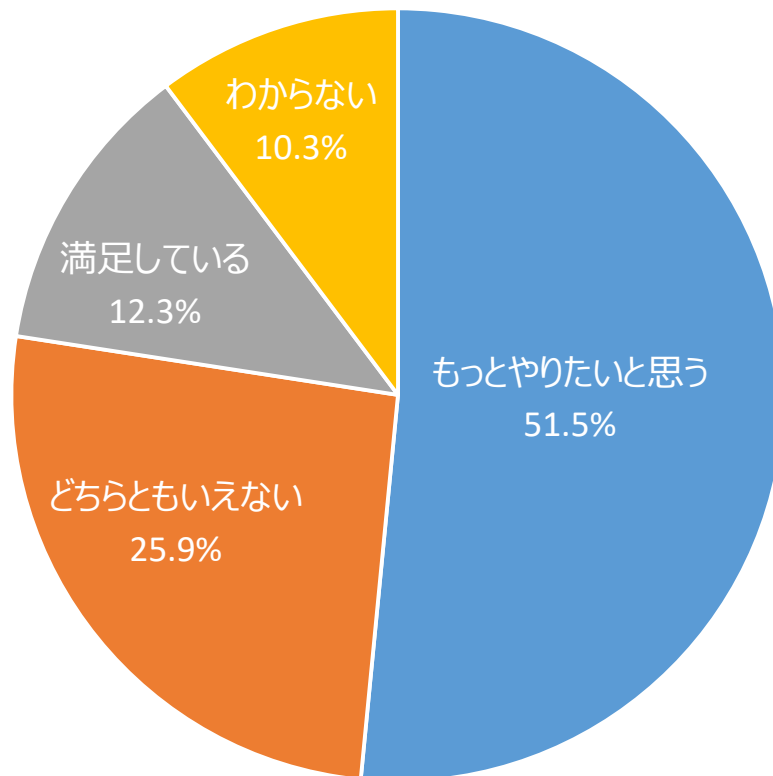
問14 コロナの前と後で運動・スポーツをする頻度は変わりましたか

「変わらない」が約6割を占めているものの、「減った」が約3割となっている。今後の感染状況により、改善する可能性はあるものの、感染症対策の実施に加えて、対策状況の周知が必要と考える。



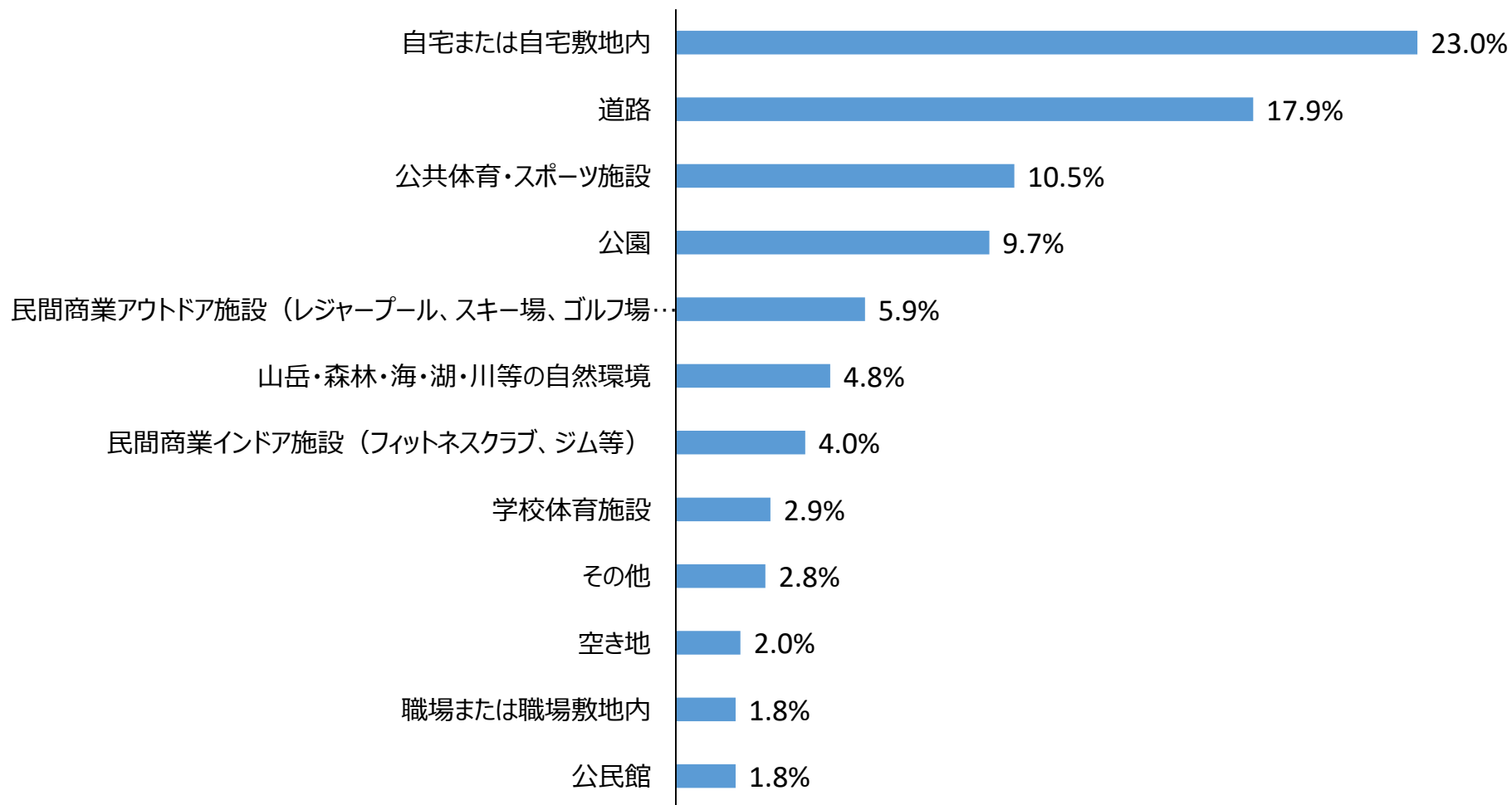
問15 あなたはご自身のスポーツの実施頻度に満足していますか

「もっとやりたいと思う」が約5割と最も多く、次いで「どちらともいえない」が約25%となっている。これは、時間の確保や制約がなければスポーツの実施頻度が高まることの裏返しともいえる。したがって、時間の制約を受けにくい種のスポーツの周知など、気軽に実施可能なスポーツに関する情報提供や訴求が有効となる。



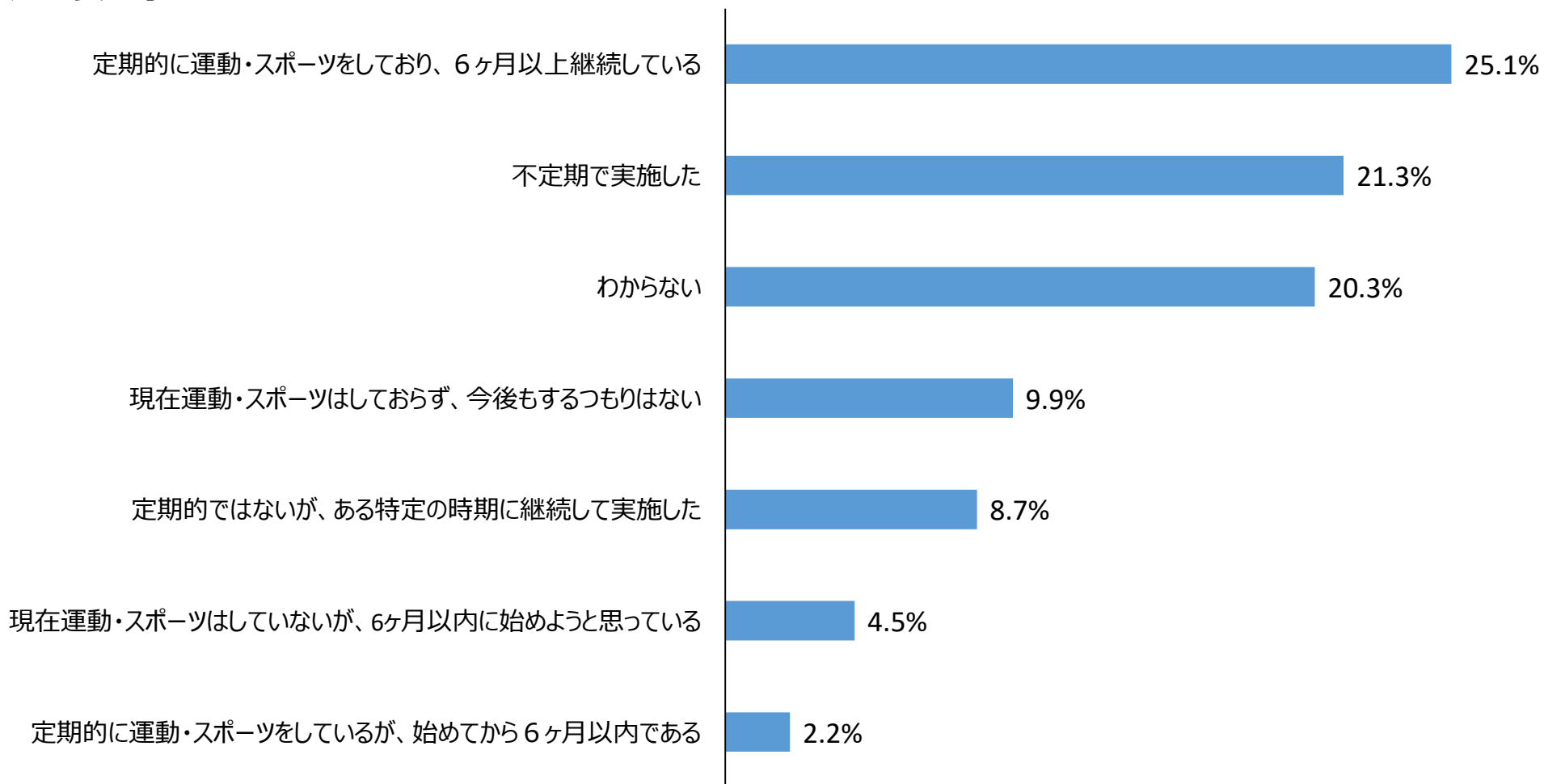
問16 この1年間に、運動・スポーツをどこで実施しましたか（複数選択可）

「自宅または自宅敷地内」が23.0%、「道路」が17.9%となっている。これは、問9で実施している運動と相関がみられる。問11の「実施してみたいスポーツ」とも相関がみられるものの、「道路」は安全上のリスクが懸念されるため、道路以外での場所や施設の提供や利用促進、すなわち安全面を考慮した環境整備など、安全安心への配慮が欠かせない。



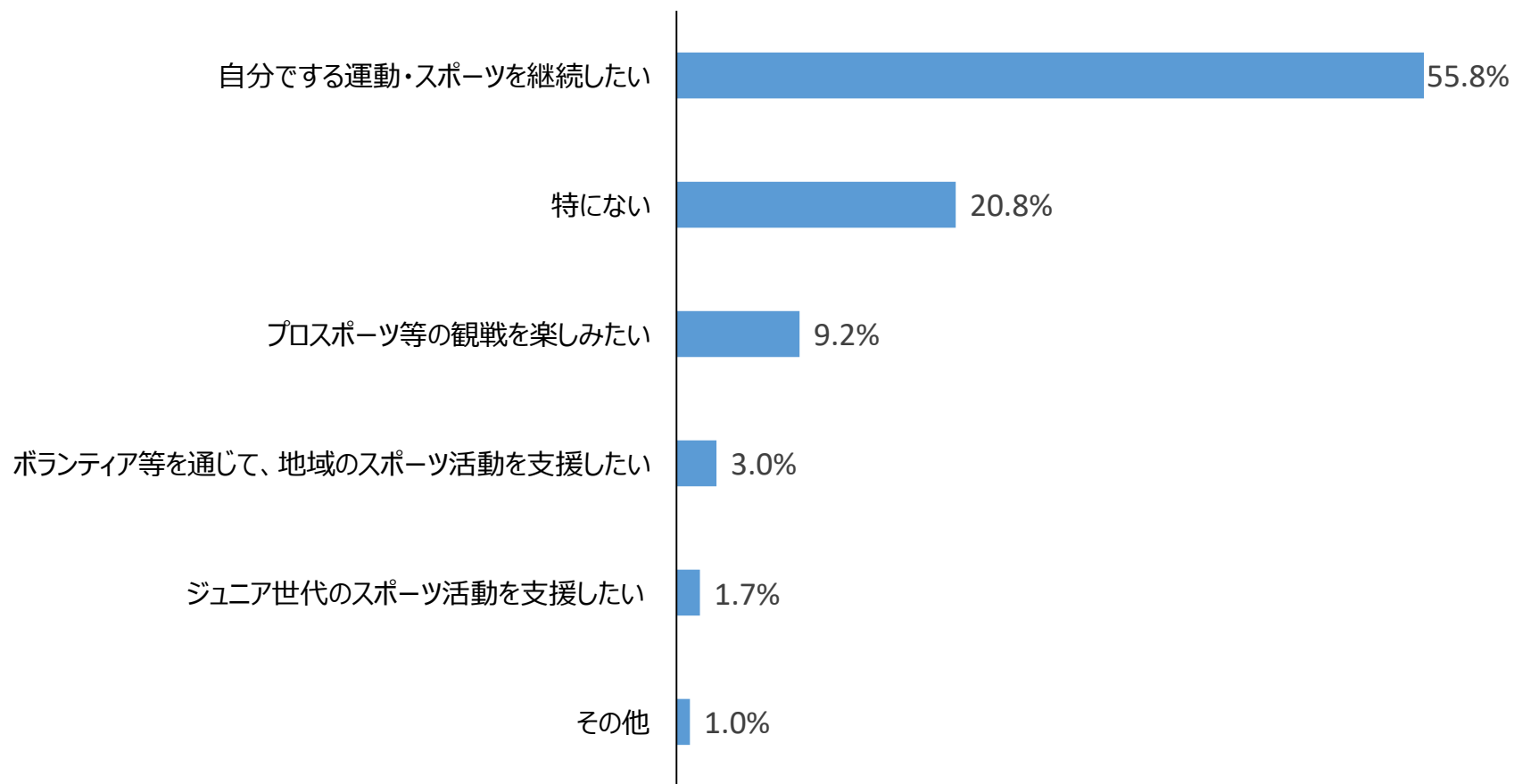
問17 運動・スポーツについて、実施状況と今後の予定について教えてください

「定期的に運動・スポーツをしており、6ヶ月以上継続している」が25.1%と最も多く、次いで「不定期で実施した」が21.3%となっている。他方、「わからない」が20.3%であることから、運動・スポーツに関心を持ってもらうための取組みが必要と考える。



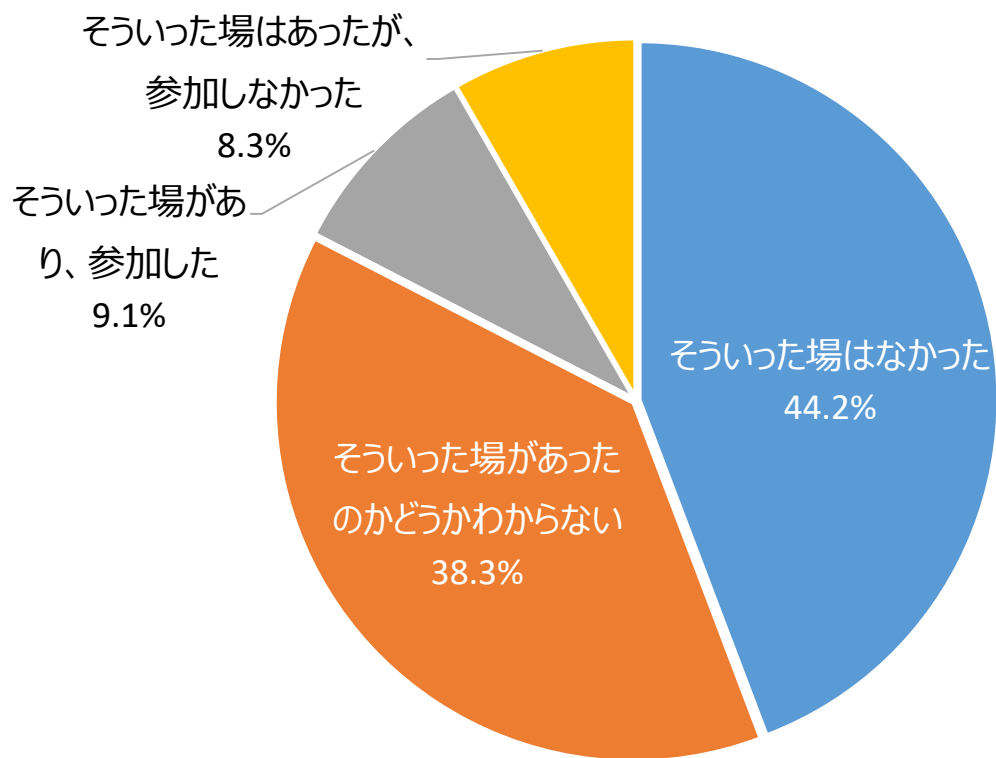
問18 今後、どのような形で運動・スポーツに関わりたいと考えますか

「自分でする運動・スポーツを継続したい」が55.8%と最も高い。他方、「特にない」が20.8%を占めた。これは、問12の「運動を全くやっていない」や問17で「今後の予定はわからない」と回答された方がこうした回答を寄せているものと考えられ、そもそもこうした回答者は運動・スポーツそのものに関心が薄いことが推察される。今後は、「スポーツを日常に」の施策を実施し、上記設問と共に経年変化をモニタリングすることで施策の有効性を把握する必要がある。



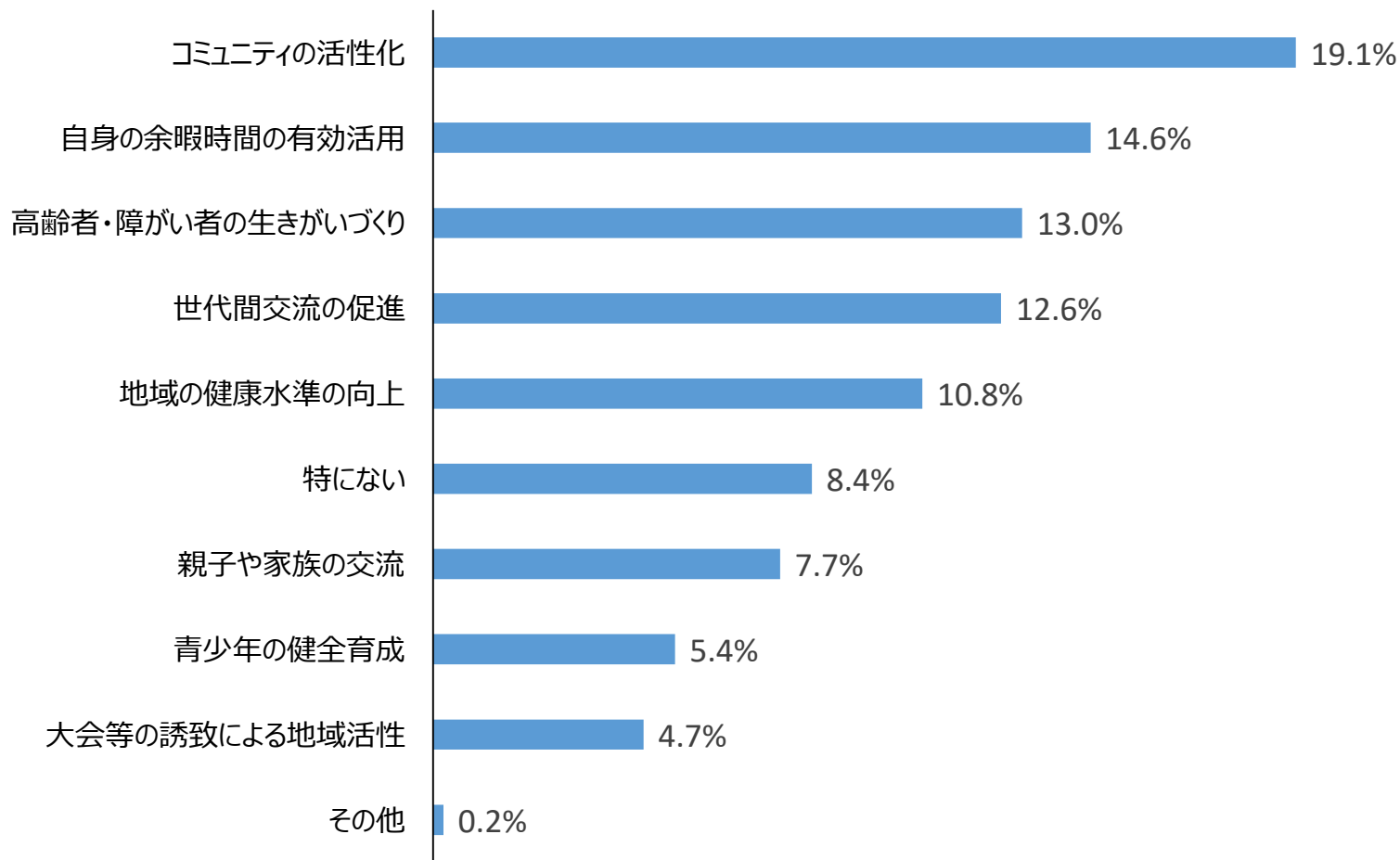
問19 この1年間に居住地の住民と一緒に運動・スポーツをする機会がありましたか

「そういった場はなかった」と「そういった場があったのかわからない」が約8割を占めている。コロナ渦によるイベント等の自粛の影響はあるものの、周知自体が不足していた可能性が考えられる。スポーツ協会等の関連団体と連携のうえ、広報、HP、ラジオ、SNSといった幅広いチャネルを利用した情報発信が必要となろう。



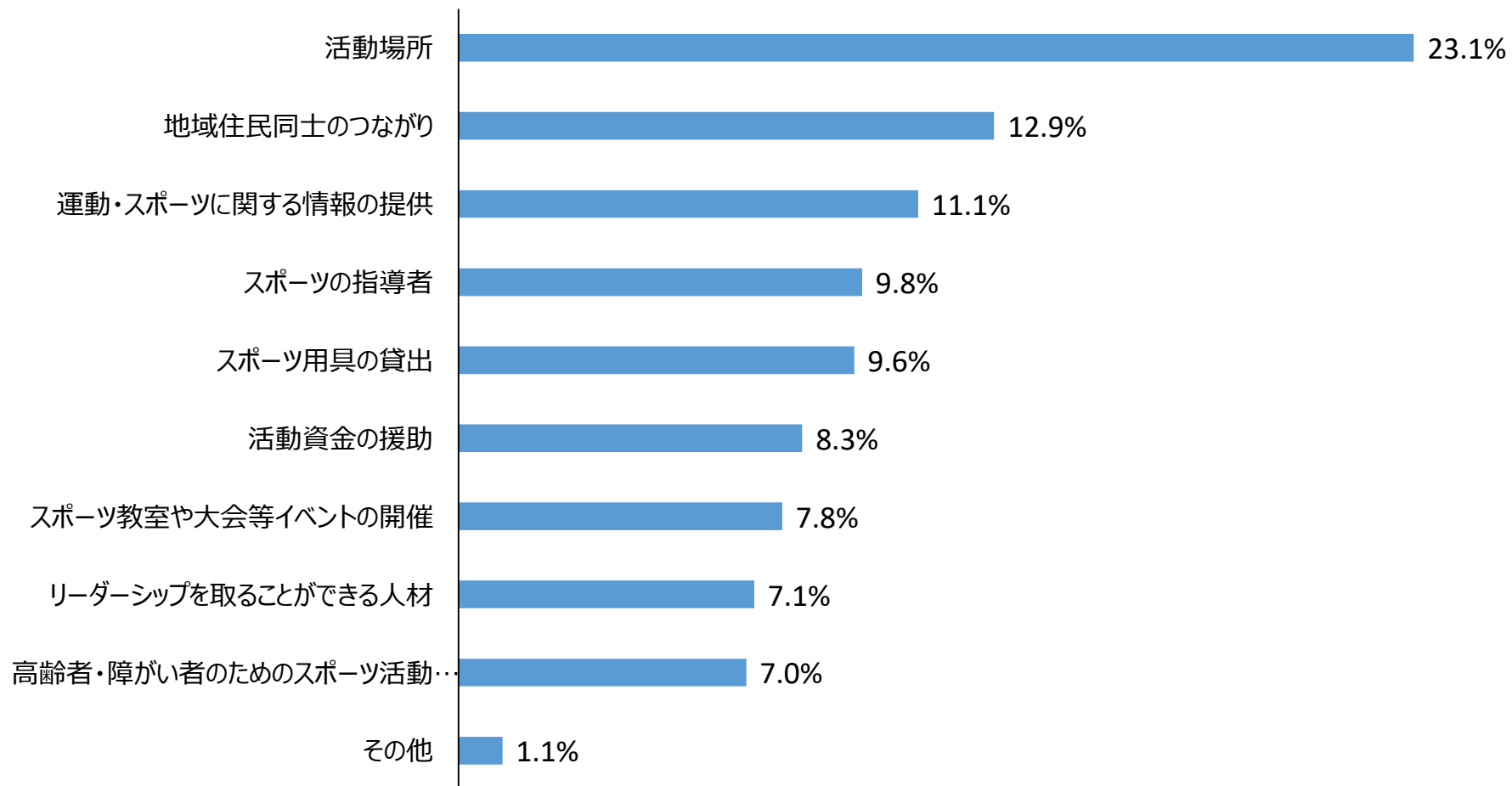
問20 地域で運動・スポーツに関する教室や行事などが盛んにおこなわれるようになった場合、その地域に対してどのような効果を期待しますか（複数選択可）

「コミュニティの活性化」との回答が19.1%と最も多かった。そのため、公民館などの比較的限定したエリア単位でスポーツを通じた住民間の交流を支援・促進する取組みが有効になると考える。



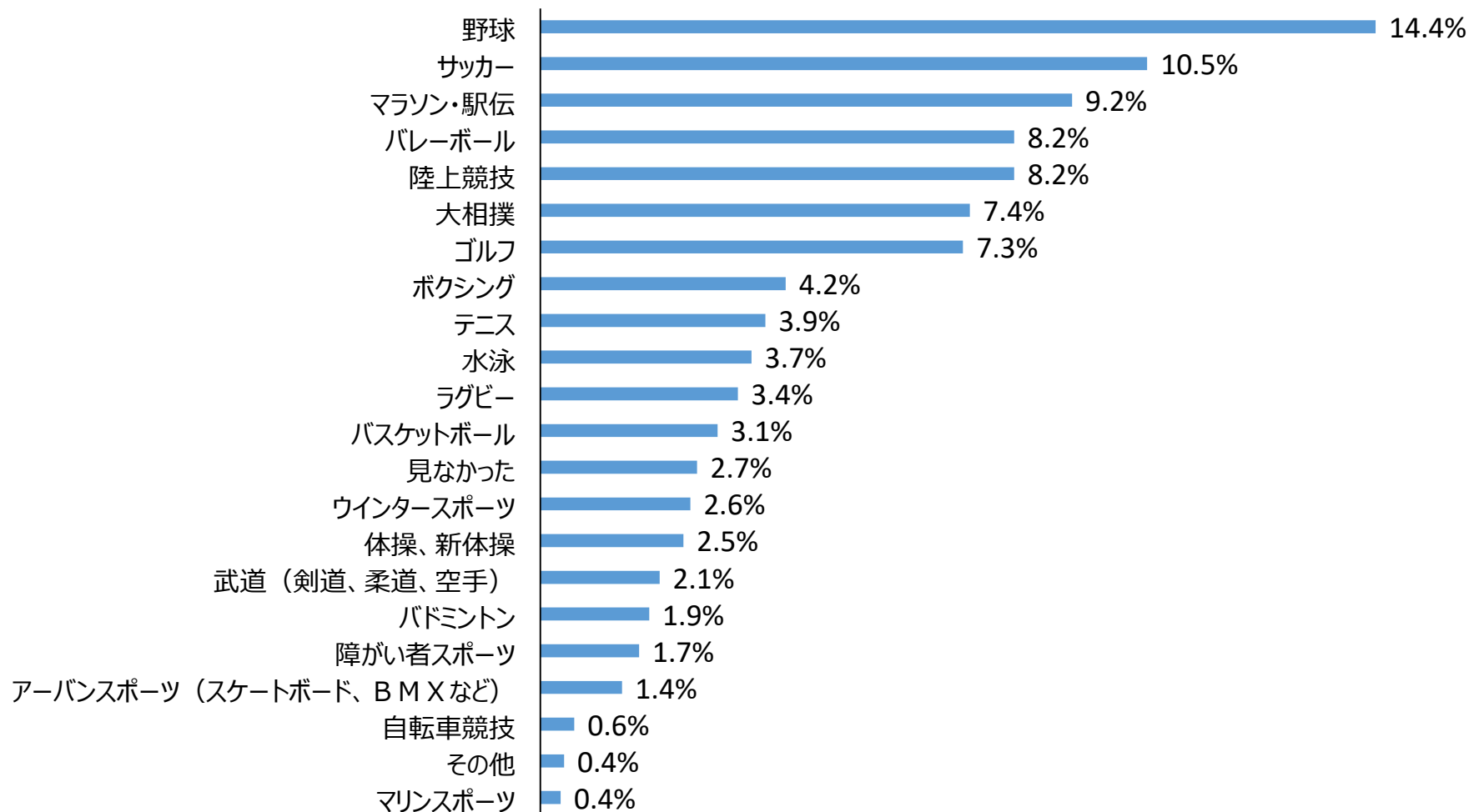
問21 地域で運動やスポーツに関する活動を行う際、どんなものが必要と考えますか（複数選択可）

「活動場所」が23.1%と最も多い。問11及び問16の結果を踏まえると、仕方なく自宅や道路で運動せざるを得ない状況になることが推察されることから、まずは場所の提供を念頭に、地域毎の実態を明らかにし、個別具体的な関与協整備を実現していくことが期待される。



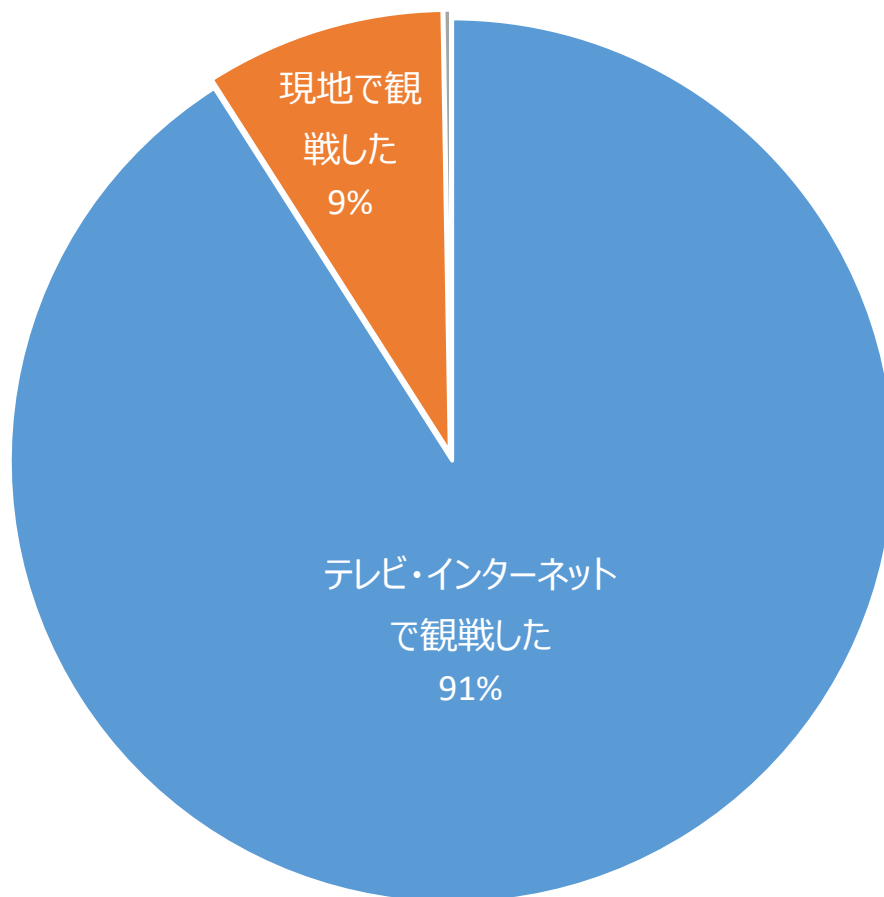
問22 あなたは、この1年間にどんなプロスポーツ・トップスポーツ観戦をしましたか（複数選択可）

「野球」が14.4%、次いで「サッカー」が10.5%となっている。TVで放映されているスポーツへの関心が高いことがうかがえる。また、いずれも当市でプロチームが合宿を実施していることから、こうした実態も回答に少なからず影響を与えていることが推察される。



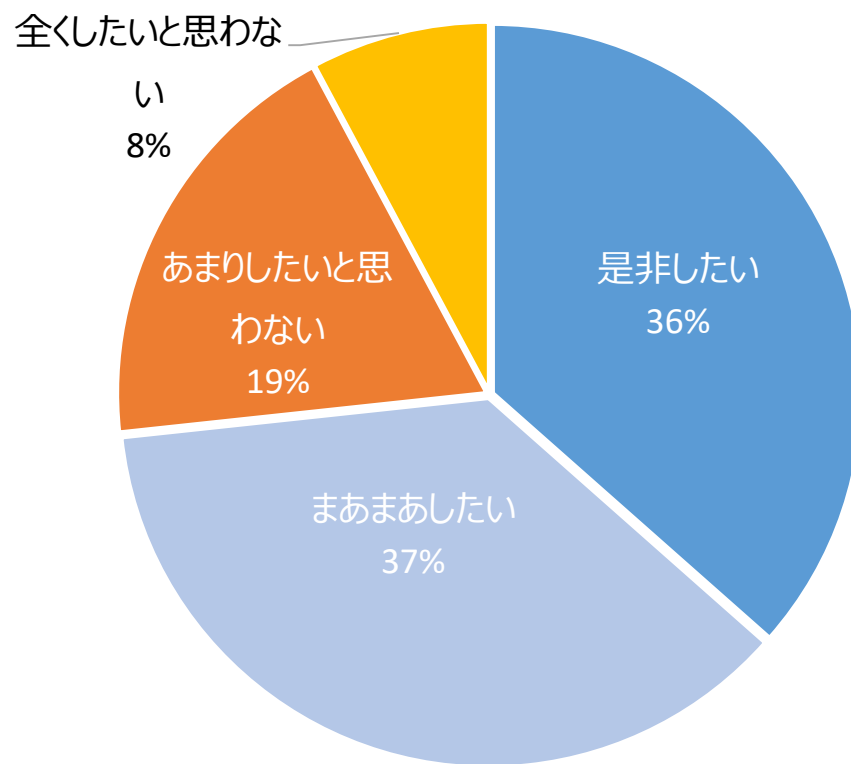
問23 問22でスポーツ観戦をしたと回答した方にお尋ねします。それは、どのような手段で観戦しましたか（複数選択可）

「テレビ・インターネットで観戦した」が91%を占めている。スポーツへの関心を高めるためには、現地の観戦により一定程度の効果が見込まれるため、市内での観戦機会の提供及び近隣都市と連携したスポーツ開催自体の周知や観戦施設への誘因手法の検討が求められる。



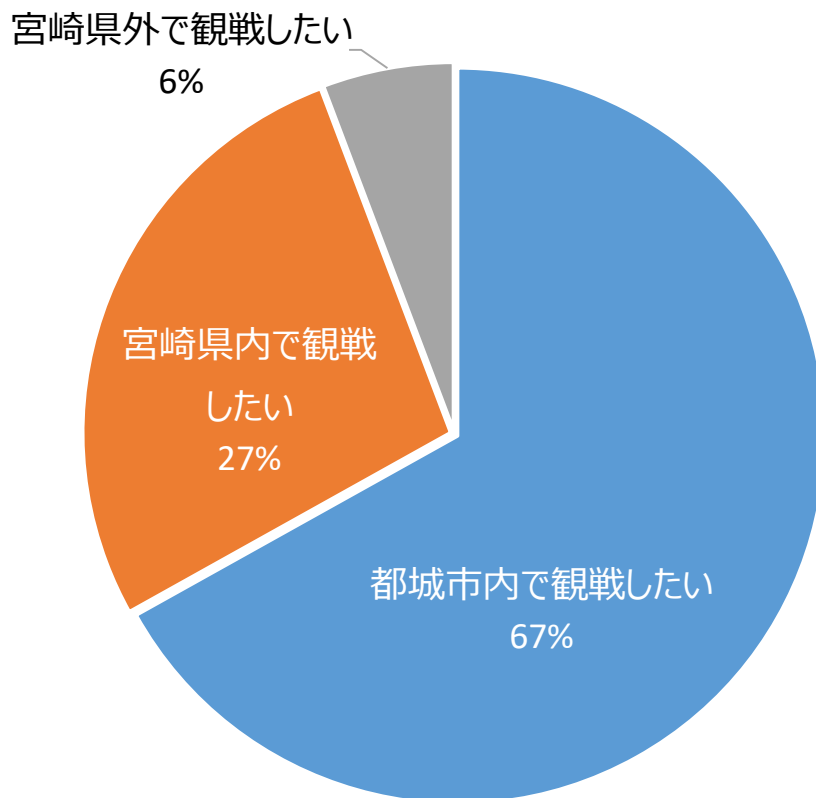
問24 プロスポーツ・トップスポーツの試合を会場で観戦したいと思いますか

「是非したい」及び「まあまあしたい」が約7割を占めている。会場でのスポーツ観戦に対する需要は高いと考えられるため、市内での観戦機会の提供及び近隣都市と連携したスポーツ開催自体の周知や観戦施設への誘因手法の検討が求められる。



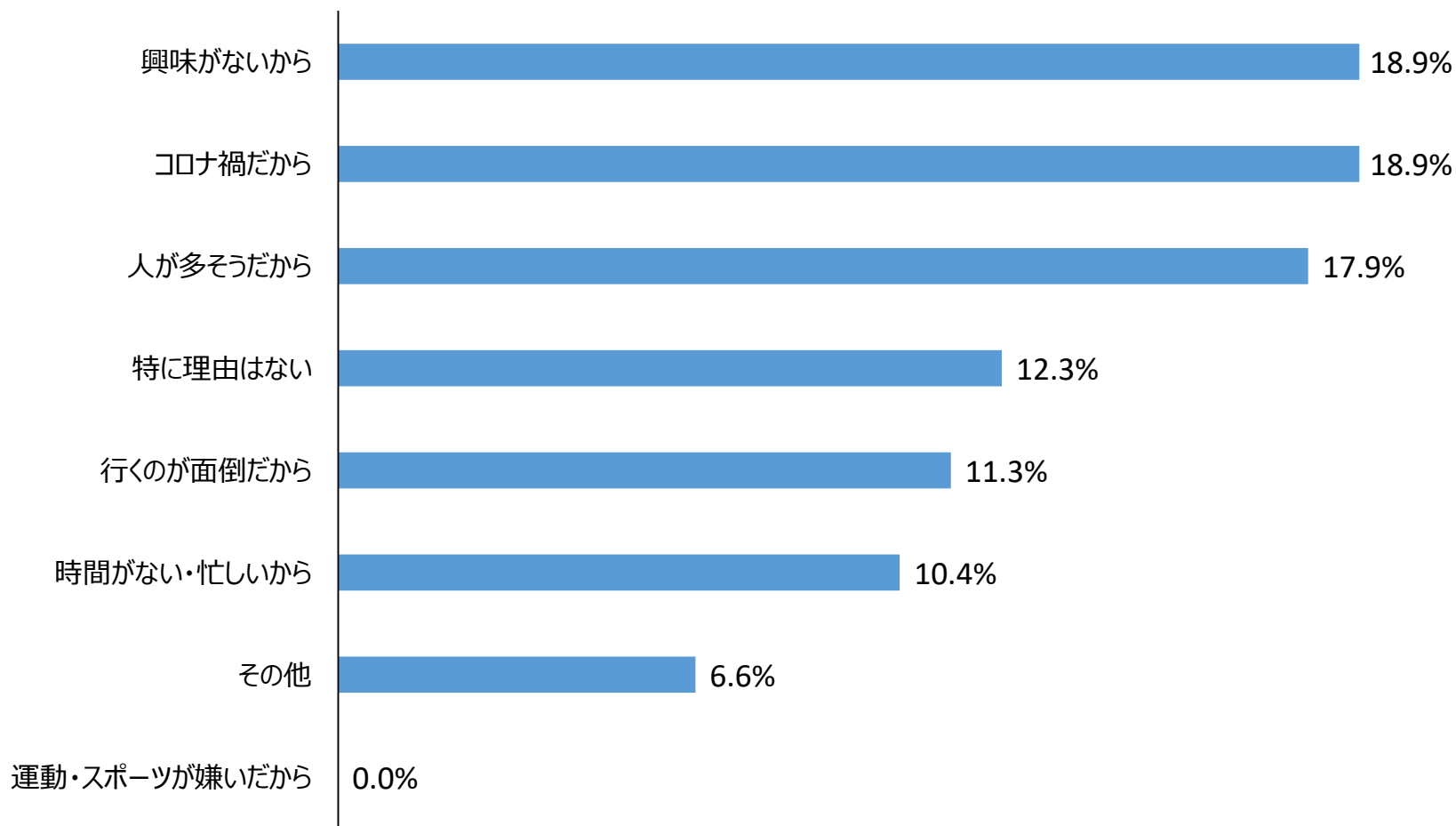
問25 問24で 1, 2 を選択した方にお聞きします。どこで観戦したいと思いますか

「市内での観戦」が67%を占める。そのため、本市を訪れるプロスポーツ球団や選手との連携を前提に、スポーツ開催自体の周知や観戦施設への誘因手法の検討が求められる。具体的には、選手との交流の場などを設営することも有効となろう。



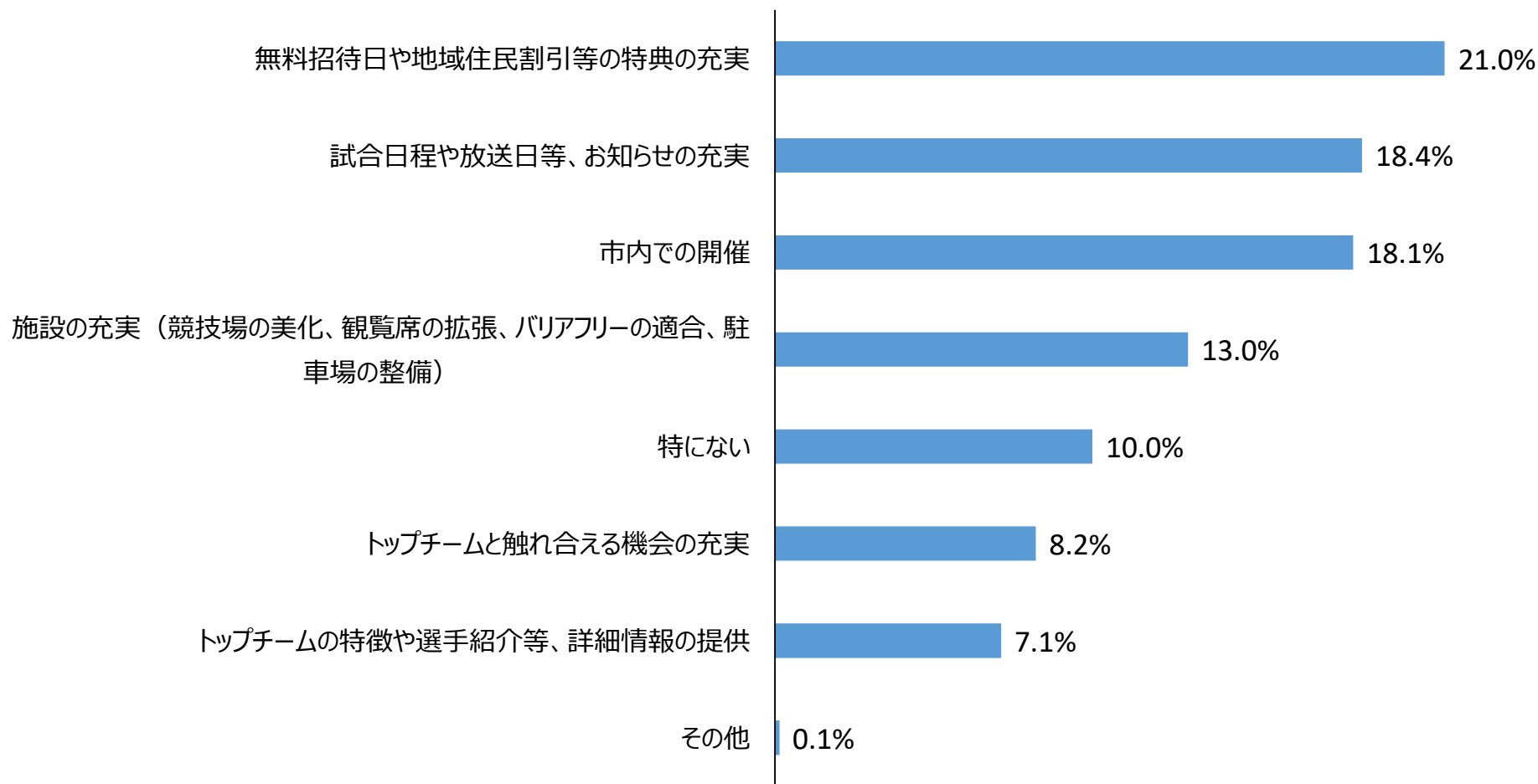
問26 問24で3, 4を選択した方にお聞きします。なぜ、そう思いますか

「興味がないから」、「コロナ禍だから」がそれぞれ18.9%を占める。コロナ感染症を懸念し会場での観戦ができていない様子が見えがえる。したがって、感染症予防策の徹底やその旨の周知徹底が極めて重要と考える。



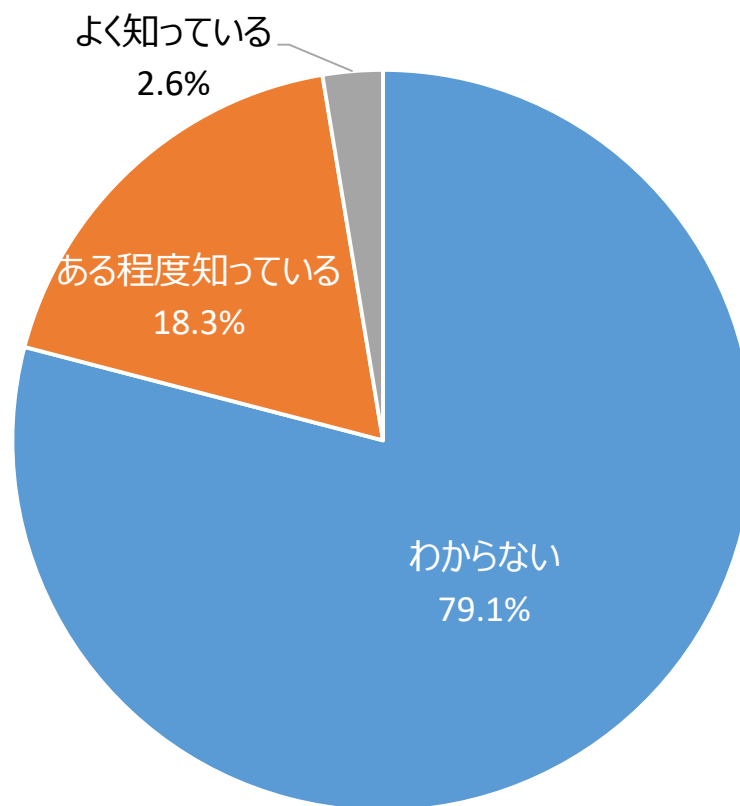
問27 この中に、あなたがプロスポーツ・トップスポーツの試合を観戦する際、重視するものがあれば教えてください（3つまで選択可）

「無料招待日や地域住民割引等の特典の充実」が21.0%と最も高く、「試合日程や放送日等、お知らせの充実」、「市内での開催」が18.4%であった。当市に来訪したプロスポーツ団体や選手と連携のうえ、例えば練習試合等の観戦機会の提供やその周知自体が有効となりそうだ。



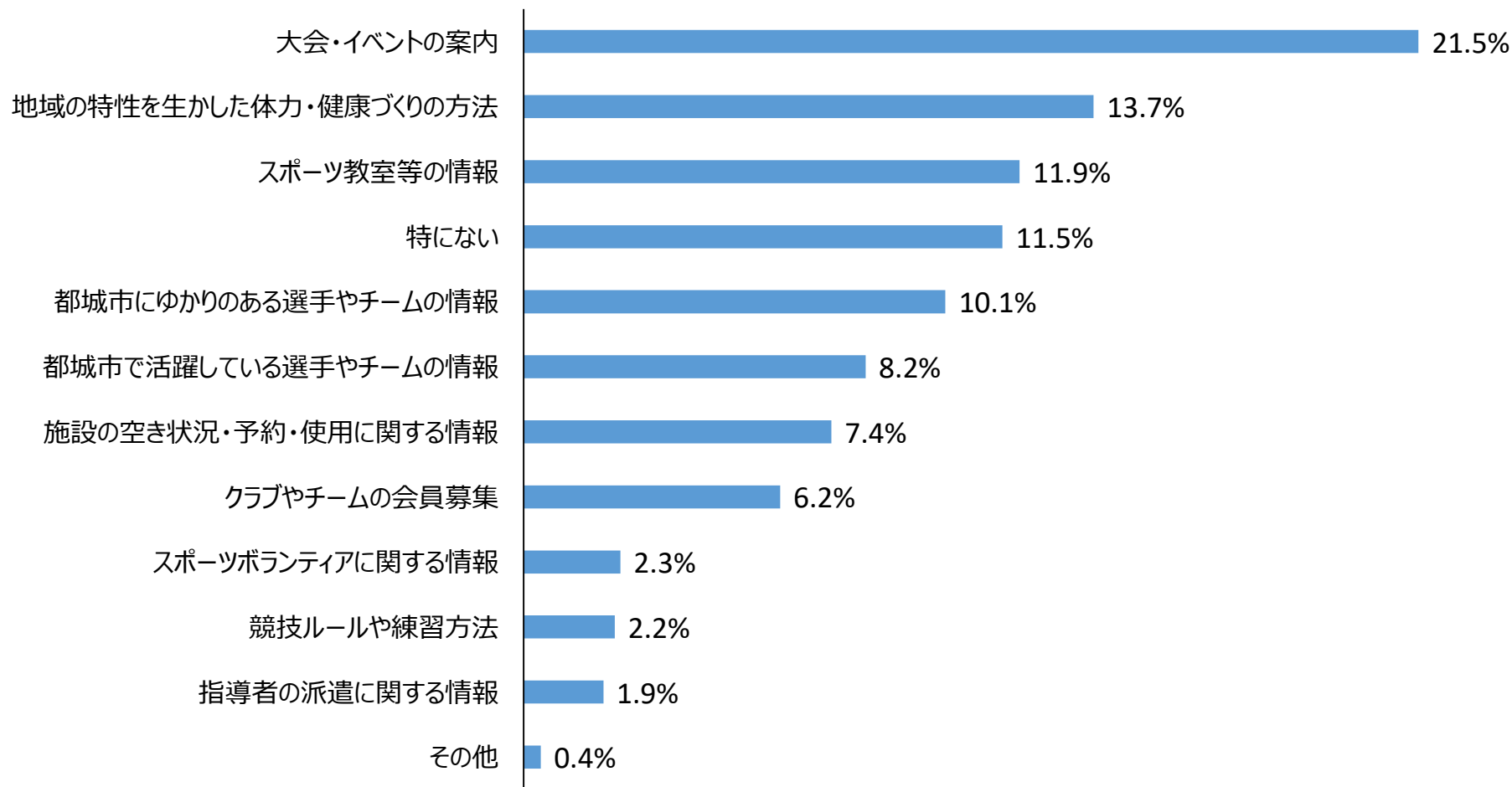
問28 都城市でスポーツキャンプや合宿を行っているトップチーム・団体等をご存じですか

「わからない」が79.1%と最も高い。「ある程度知っている」、「知っている」との回答においては「FC東京」との回答が最も多く、次いで「ツェーゲン金沢」となった。こうした既に認知度の高いトップチームや団体以外のチームや団体の認知度の向上に向けては、当市を訪れるチーム・団体等と連携のうえ、相当程度時間的余裕を持った広報活動が有効となり、HPやラジオ、SNSといった複数のチャンネルを通じた情報発信が有効と考える。



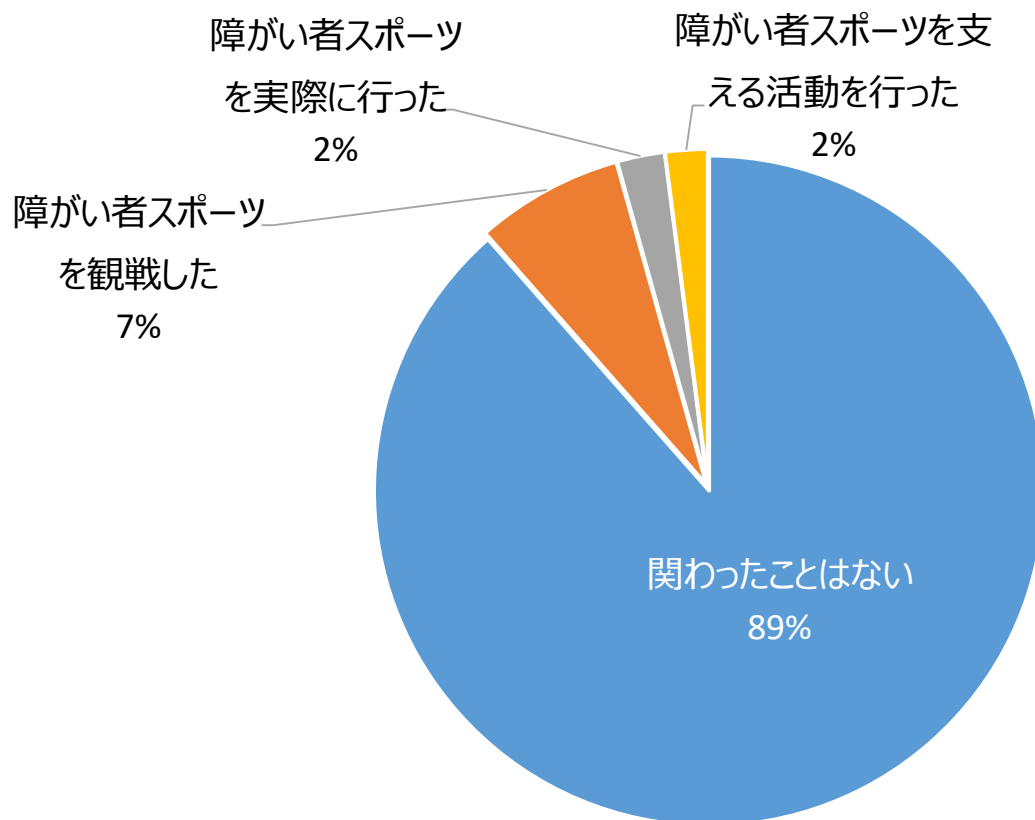
問30 知りたいと思う都城市の運動・スポーツに関する情報は何ですか (複数選択可)

「大会・イベントの案内」が21.5%と最も高い。つまり、参加する希望はあるものの、情報が不足していたために参加できなかった方が一定程度存在している可能性が考えられる。したがって、参加希望の方が漏れなく参加できるよう、複数の情報チャネルによる情報発信が必要と考える。



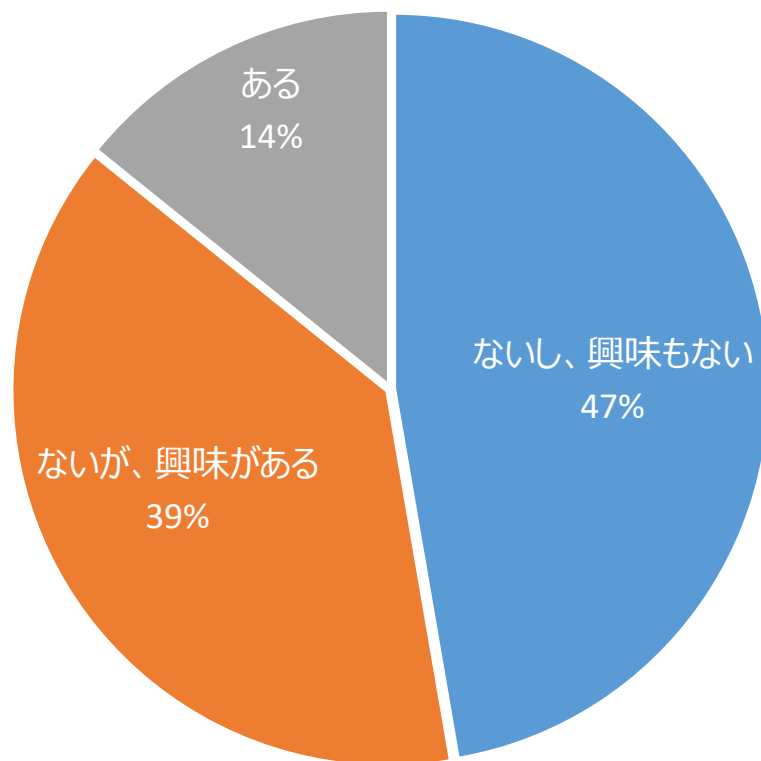
問3 1 あなたは障がい者スポーツ（障がいのある人が取り組むスポーツ）に関わった経験がありますか

「関わったことはない」が約9割と最も高い。これには障がい者向けスポーツへの各種施策の実行と意識啓発活動が欠かせない。そのうえで、経年変化の捕捉による施策の有効性評価を継続して実施することが有効となろう。



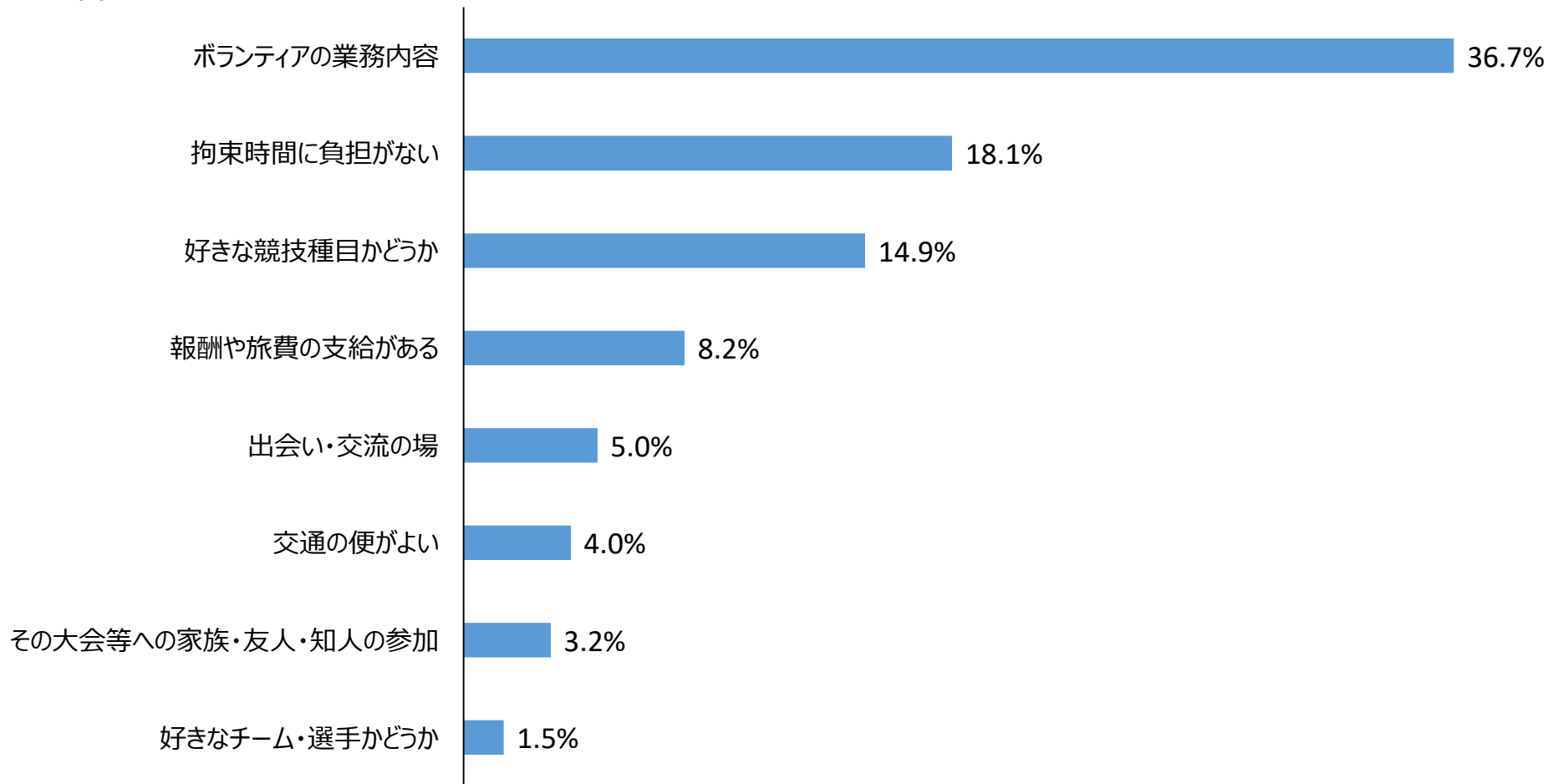
問3 2 あなたはスポーツの指導やスポーツ大会の運営・手伝いなど運動・スポーツに関するボランティア活動を行った経験がありますか

「ないし、興味もない」が47%を占めるものの、「ないが、興味がある」が39%を占めている。興味がある方が一定程度存在することから、運動・スポーツに関するボランティア活動の実施において、複数チャネルによる情報発信、ボランティア活動そのものの中身の定義付けや細分化が必要となりそうだ。



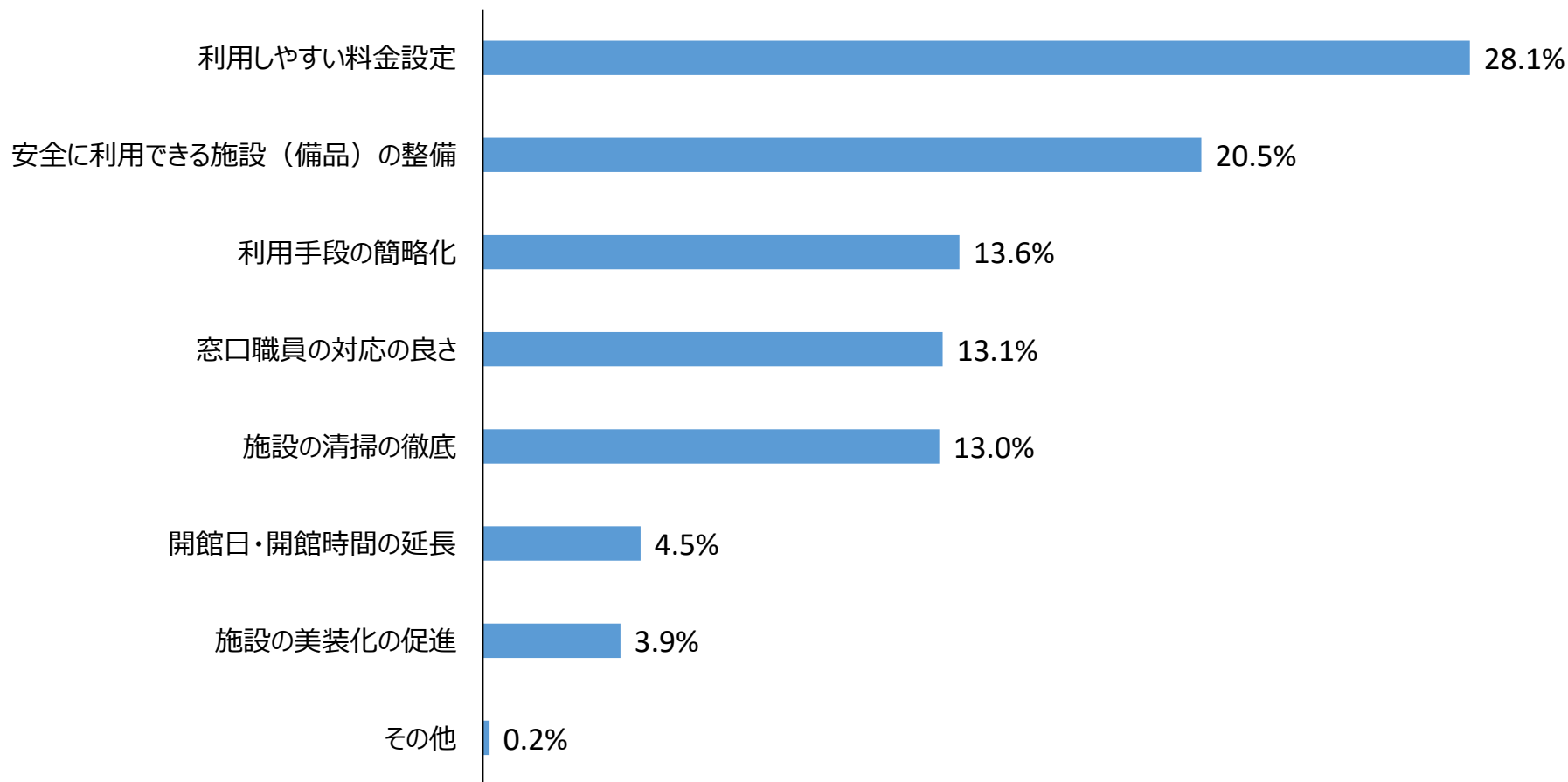
問 3 3 スポーツボランティア活動に参加するための条件として重視するものは何ですか

「ボランティアの業務内容」が36.7%と最も高い。これはボランティア活動に参加した場合のやりがいや負担感を念頭においたものと考えられる。また、業務内容そのものが広く知れ渡っていない可能性も否定できない。そのため、今後は実施予定のスポーツボランティア活動の参加者調査（アンケート/インタビュー）を実施のうえ、参加者のニーズや問題意識・課題感の精緻な把握が必要と考える。



問3 4 スポーツ施設の管理運営に望むものは何ですか（複数選択可）

「利用しやすい料金設定」が28.1%で最も高く、次いで「安全に利用できる施設（備品）の整備」が20.5%となった。金銭面や道具の準備等、利用者が気軽に利用するための仕組みが必要となるが、主として行政の財源に依拠するものが多分に含まれることから、政策としてはあえてこれ以外の回答にフォーカスし、行政支出を伴わない施策から優先的に着手することも有効である。



問35 市が今後力をいれるべきだと思うスポーツ施策をお答えください（複数選択可）

「身近なスポーツ参加の機会を増やす」が9.5%、次いで「スポーツによる健康づくり」が8.5%となった。運動・スポーツ機会の提供に向けては、都城市スポーツ協会や関連団体との連携強化が必要と考える。

